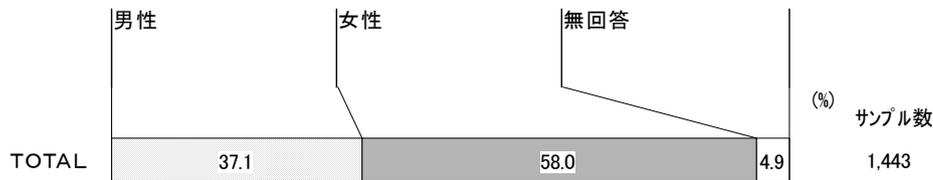


## 1 基本的な属性

### (1) 性別

問1 性別をお答えください。(○は1つ)

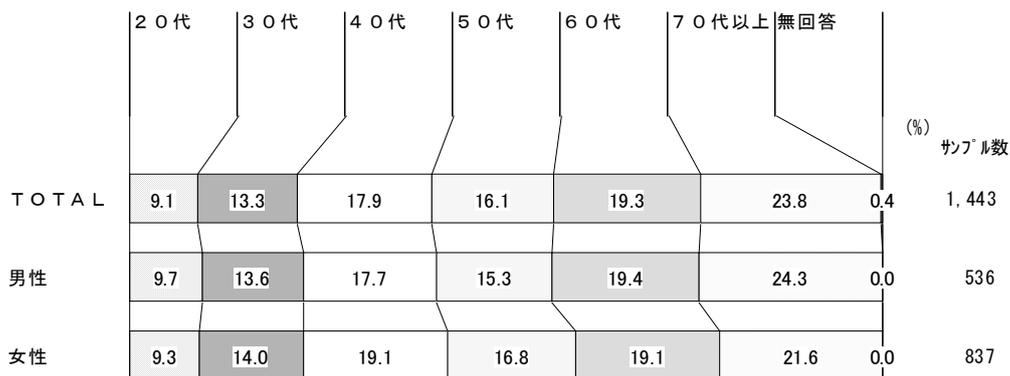
性別の構成は、男性 37.1%、女性 58.0%である。



### (2) 年齢

問2 年齢をお答えください。(○は1つ)

年齢の構成は、20代 9.1%、30代 13.3%、40代 17.9%、50代 16.1%、60代 19.3%、70代以上 23.8%である。



### (3) 居住地区

問3 お住まいの町はどちらですか。(○は1つ)

居住地区は、「芝久保町」が9.4%と最も多く、次いで「向台町」(7.9%)、「谷戸町」(7.4%)と続いている。

	田無町	南町	西原町	緑町	谷戸町	北原町	向台町	芝久保町	新町
人数	104	77	59	23	107	30	114	136	66
構成比	7.2%	5.3%	4.1%	1.6%	7.4%	2.1%	7.9%	9.4%	4.6%

	柳沢	東伏見	保谷町	富士町	中町	東町	泉町	住吉町	ひばりが丘
人数	89	34	83	69	63	45	60	59	65
構成比	6.2%	2.4%	5.8%	4.8%	4.4%	3.1%	4.2%	4.1%	4.5%

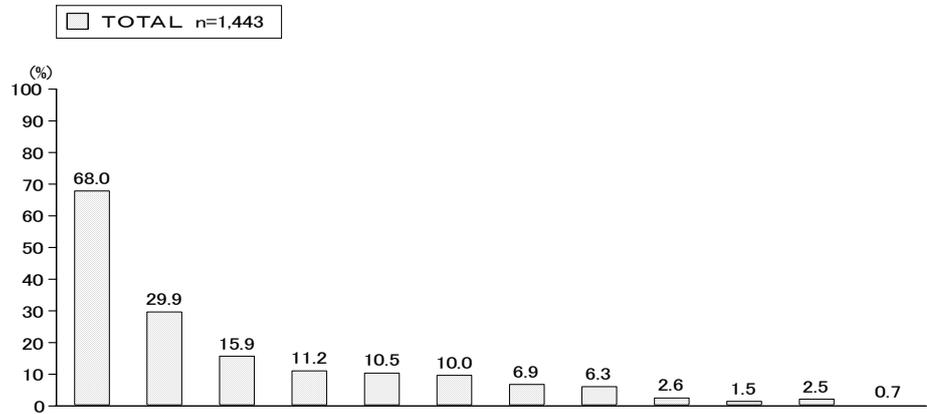
	ひばりが丘北	栄町	北町	下保谷	無回答
人数	22	33	39	56	10
構成比	1.5%	2.3%	2.7%	3.9%	0.7%

### (4) 同居家族

問4 現在、あなたと同居されているご家族はどなたですか。(○はいくつでも)

同居家族は、「配偶者」が68.0%と最も多く、次いで「子ども(高校生以上)」(29.9%)、「父・母」(15.9%)と続いている。なお、約1割は「ひとり暮らし」(11.2%)である。

年代別の特徴を見ると、20代の67.2%は「父・母」と、30代の45.8%は「子ども(未就学)」と、50代の60.3%は「子ども(高校生以上)」と同居している。また、60代の約1割(12.2%)、70代以上の約2割(18.9%)は、「ひとり暮らし」であることがわかる。



*問2 年齢	n	2	6	3	1	9	8	7	5	10	4	11	12
		配偶者	子ども(高校生以上)	父・母	ひとり暮らし	子ども(未就学)	子ども(小学生)	子ども(中学生)	兄弟姉妹	孫	祖父・祖母	その他	無回答
0 TOTAL	1,443	68.0	29.9	15.9	11.2	10.5	10.0	6.9	6.3	2.6	1.5	2.5	0.7
1 20代	131	19.1	0.8	67.2	9.9	14.5	2.3	0.0	45.8	0.0	7.6	1.5	0.0
2 30代	192	73.4	0.0	18.8	9.4	45.8	20.3	4.7	4.7	0.0	2.6	0.5	0.5
3 40代	259	77.2	30.1	17.8	5.0	15.8	35.5	29.7	3.1	0.0	1.2	0.8	0.0
4 50代	232	79.7	60.3	15.5	7.8	0.4	3.0	4.7	1.7	0.0	0.9	1.3	0.0
5 60代	279	76.7	38.4	6.8	12.2	0.4	0.0	0.4	1.1	1.8	0.7	3.2	0.4
6 70代以上	344	62.8	30.5	1.2	18.9	0.3	0.9	0.6	2.0	9.3	0.0	5.5	0.6
7 無回答	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

### (5) 職業

問5 あなたのご職業は、次のうちどれですか。(○は1つ)

職業は、「勤め人(会社や公的機関等)」が31.1%と最も多く、次いで「専業主婦・主夫」が22.1%で続いている。

年代別に見ると、30代では「勤め人(会社や公的機関等)」が56.8%、70代以上では「無職」が57.3%を占める。

(%)

n	自営業・事業主・農業	勤め人(会社や公的機関等)	パート・アルバイト等	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答	
TOTAL	1,443	7.0	31.1	13.9	22.1	2.9	20.2	2.2	0.6
20代	131	0.8	44.3	15.3	6.1	31.3	2.3	-	-
30代	192	2.6	56.8	12.5	25.5	-	2.1	0.5	-
40代	259	8.9	48.3	18.5	20.8	-	2.7	0.4	0.4
50代	232	8.6	42.2	22.8	16.4	-	7.8	2.2	-
60代	279	8.2	18.6	16.1	31.5	0.4	22.2	2.9	-
70代以上	344	8.4	2.0	2.9	23.8	-	57.3	4.9	0.6
無回答	6	-	-	-	-	-	-	-	100.0

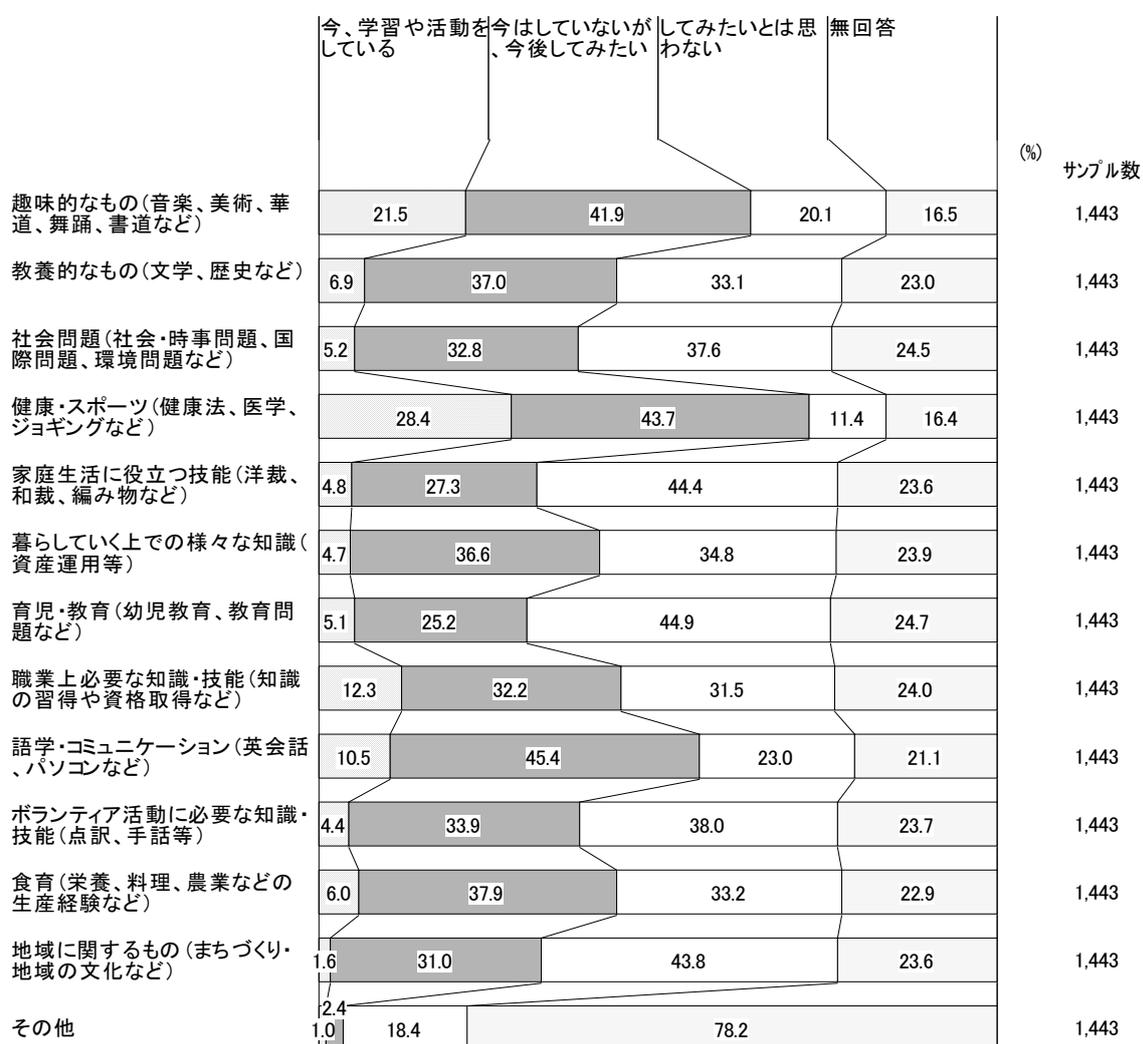
## 2 学習や活動の状況

### (1) 学習や活動の内容

問6 現在、あなたはどのような学習や活動をしていますか。また、今後してみたいと思いますか。  
次の(ア)～(ス)のそれぞれの項目についてお答えください。(○は(ア)～(ス)ごとに、それぞれ1つずつ)

12の学習・活動のうち、「今、学習や活動をしている」人が最も多いのは、「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギングなど）」で、約3割の人（28.4%）が活動している。次に多いのは、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」で、約2割の人（21.5%）が活動している。

「今はしていないが、今後してみたい」と考えている人が最も多いのは、「語学・コミュニケーション（英会話、パソコンなど）」で、45.4%の人に活動意向がある。また、いずれの学習・活動も、実際に活動している人よりも、今は活動していないが活動してみたいと考えている人が多くなっており、潜在的な活動意向が高い状況がうかがわれる。



※学習・活動の種類の名前は、一部簡略化して記載している。

年代別に見ると、20代では「今、学習や活動をしている」人が最も多いのは「職業上必要な知識・技能」で、35.1%が学習や活動をしている。また、30代では「今はしていないが、今後活動してみたい」人が最も多いのは「健康・スポーツ」で、65.1%に活動意向がある。

#### 【学習や活動をしている内容(上位3項目)】

	n	1位	2位	3位
20代	131	職業上必要な知識・技能 35.1%	趣味的なもの 29.0%	健康・スポーツ 26.7%
30代	192	健康・スポーツ 22.4%	職業上必要な知識・技能 19.3%	趣味的なもの 13.5%
40代	259	健康・スポーツ 28.6%	趣味的なもの 15.8%	職業上必要な知識・技能 10.8%
50代	232	健康・スポーツ 32.3%	趣味的なもの 18.5%	職業上必要な知識・技能 14.7%
60代	279	健康・スポーツ 26.9%	趣味的なもの 24.4%	語学・コミュニケーション 10.8%
70代以上	344	健康・スポーツ 31.1%	趣味的なもの 27.3%	語学・コミュニケーション 10.5%

#### 【今はしていないが、今後活動してみたい内容(上位3項目)】

	n	1位	2位	3位
20代	131	語学・コミュニケーション 61.1%	暮らしていく上での様々な知識 53.4%	健康・スポーツ 食育 各52.7%
30代	192	健康・スポーツ 65.1%	趣味的なもの 58.9%	語学・コミュニケーション 57.8%
40代	259	語学・コミュニケーション 63.7%	趣味的なもの 57.1%	健康・スポーツ 52.5%
50代	232	語学・コミュニケーション 52.2%	健康・スポーツ 51.3%	趣味的なもの 49.6%
60代	279	健康・スポーツ 42.7%	語学・コミュニケーション 41.6%	趣味的なもの 39.8%
70代以上	344	教養的なもの 22.4%	地域に関するもの 20.1%	社会問題 健康・スポーツ 各18.3%

※学習・活動の種類の名前は、一部簡略化して記載している。

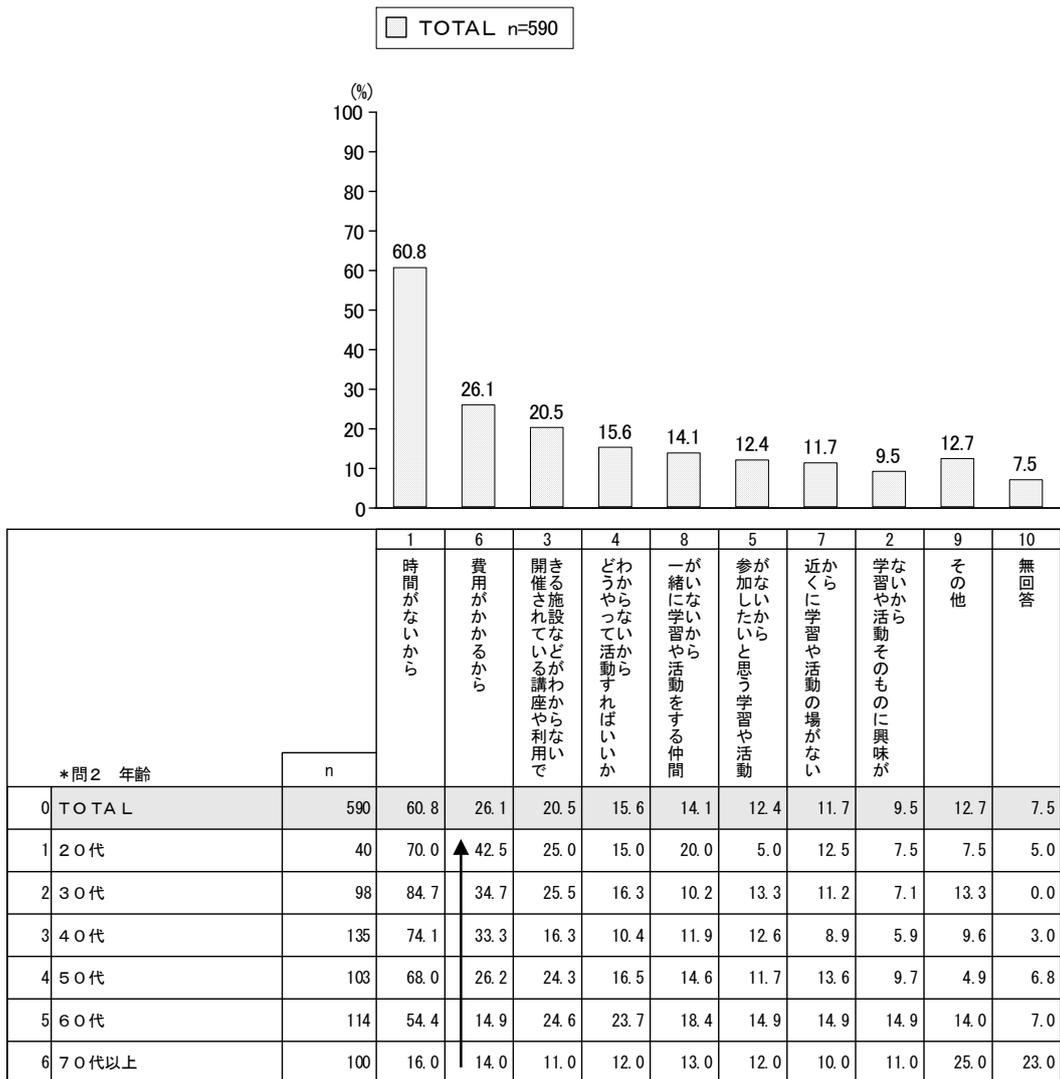
## (2) 学習や活動ができない理由、しない理由

問7 学習や活動ができない理由、しない理由は何ですか。次の理由の中から、あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

※「今、学習や活動をしているものが1つもない」と回答した者

学習や活動ができない理由、しない理由としては、「時間がないから」をあげる人が60.8%と最も多く、次いで「費用がかかるから」(26.1%)、「開催されている講座や利用できる施設などがわからない」(20.5%)と続いている。

年代別に見ると、「費用がかかるから」と回答した人の割合は年代が若いほど高く、20代では42.5%が理由としてあげている。また、60代では、「どうやって活動すればいいかわからないから」(23.7%)と回答した人が2割を超えている。



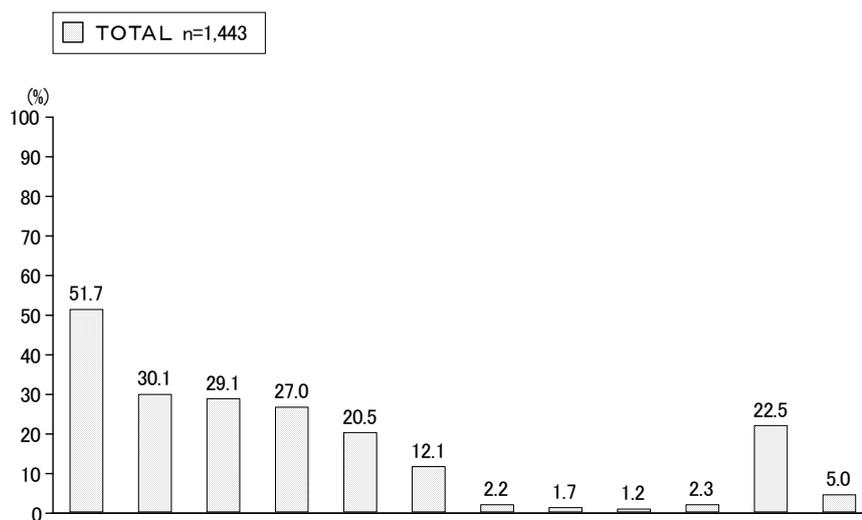
※選択肢は一部簡略化して記載している。

### (3) 市内施設の利用状況

問8 あなたは、この1年間で、西東京市内の下記の施設を利用したことがありますか。利用したことがある施設をすべてお答えください。(〇はいくつでも)

この1年間に最も利用されている市内の施設は、「図書館（中央、保谷駅前、芝久保、谷戸、柳沢など）」(51.7%)で、約半数の人が利用したことがあると回答している。次いで「ホール（保谷こもれびホール、西東京市民会館など）」(30.1%)、「公園・児童遊園など」(29.1%)の順で続いている。

性・年代別に見ると、「図書館」は女性40代の利用経験率が7割以上(72.5%)と特に高い。また、「公園・児童遊園など」は、低年齢児の子育て世代である男性30代(42.5%)と女性30代(58.1%)の利用経験率が高くなっている。「スポーツ施設（健康広場、スポーツセンターなど）」は、男性・女性ともに30代・40代での利用経験率が約3割と、他の年代に比べて高くなっている。



*性×年代	n	3	1	6	2	5	4	7	9	8	10	11	12
		久保、谷戸、柳沢など 芝	保谷こもれびホール 西東京市民会館など	公園・児童遊園など	公民館 (柳沢、ひばりが丘など) 田無、芝久保	スポーツ施設 (健康広場、 スポーツセンターなど)	市民集会所・地区会館 (ふれ あいセンターなど)	西原総合教育施設	市内の大学	郷土資料室	その他	いずれも利用したことはない	無回答
0 TOTAL	1,443	51.7	30.1	29.1	27.0	20.5	12.1	2.2	1.7	1.2	2.3	22.5	5.0
1 男性20代	52	51.9	11.5	28.8	19.2	21.2	7.7	0.0	1.9	0.0	1.9	28.8	1.9
2 男性30代	73	63.0	24.7	42.5	17.8	30.1	4.1	0.0	2.7	0.0	4.1	15.1	0.0
3 男性40代	95	52.6	27.4	37.9	12.6	30.5	6.3	2.1	1.1	2.1	3.2	27.4	3.2
4 男性50代	82	40.2	26.8	29.3	11.0	14.6	6.1	0.0	3.7	3.7	0.0	28.0	6.1
5 男性60代	104	47.1	23.1	20.2	28.8	12.5	9.6	1.9	1.9	1.0	1.0	27.9	3.8
6 男性70代以上	130	49.2	33.1	26.2	36.9	12.3	16.2	4.6	3.1	3.8	2.3	23.8	8.5
7 女性20代	78	53.8	21.8	33.3	19.2	14.1	6.4	1.3	2.6	1.3	1.3	25.6	5.1
8 女性30代	117	65.8	38.5	58.1	24.8	29.1	14.5	2.6	0.9	0.0	4.3	13.7	2.6
9 女性40代	160	72.5	34.4	36.3	29.4	31.9	12.5	3.1	0.0	0.6	1.9	15.0	1.9
10 女性50代	141	51.8	28.4	25.5	19.9	19.9	9.2	2.1	0.7	0.0	2.1	25.5	2.1
11 女性60代	160	43.8	35.6	25.0	36.9	15.6	16.9	1.9	2.5	0.0	0.6	19.4	5.6
12 女性70代以上	181	40.9	32.6	13.3	38.1	18.8	21.5	3.9	1.7	2.8	4.4	24.9	10.5
13 無回答	70	35.7	31.4	10.0	28.6	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	1.4	24.3	10.0

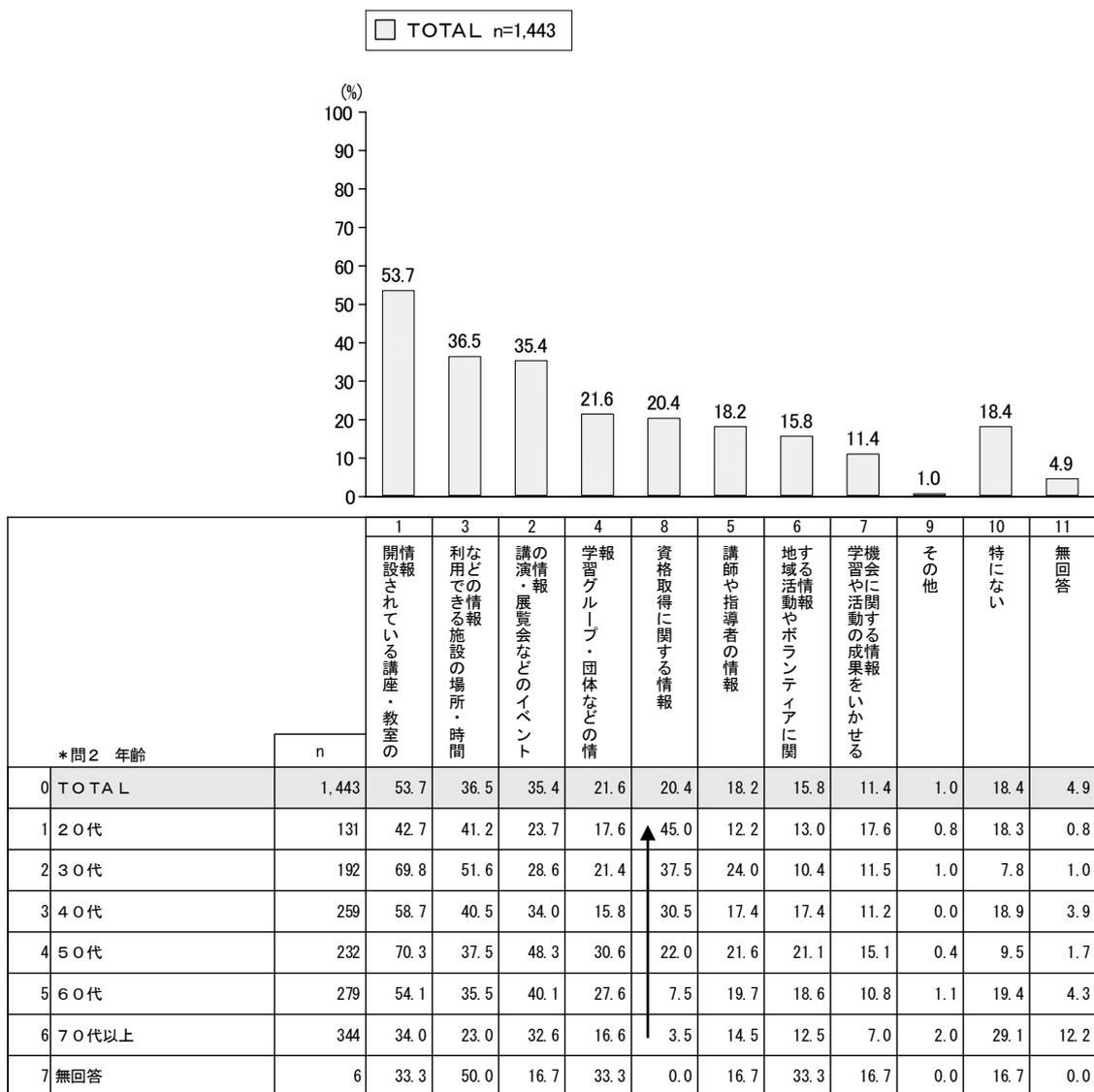
※選択肢は一部簡略化して記載している。

### (4) 生涯学習に関して知りたい情報

問9 生涯学習に関して、どのような情報を知りたいと思いますか。(○はいくつでも)

生涯学習に関して知りたい情報としては、「開設されている講座・教室の情報」をあげる人が 53.7%と最も多く、次いで「利用できる施設の場所・時間などの情報」(36.5%)、「講演・展覧会などのイベントの情報」(35.4%)と続いている。

年代別に見ると、「資格取得に関する情報」と回答した人の割合は年代が若いほど高く、20代では45.0%が要望している。

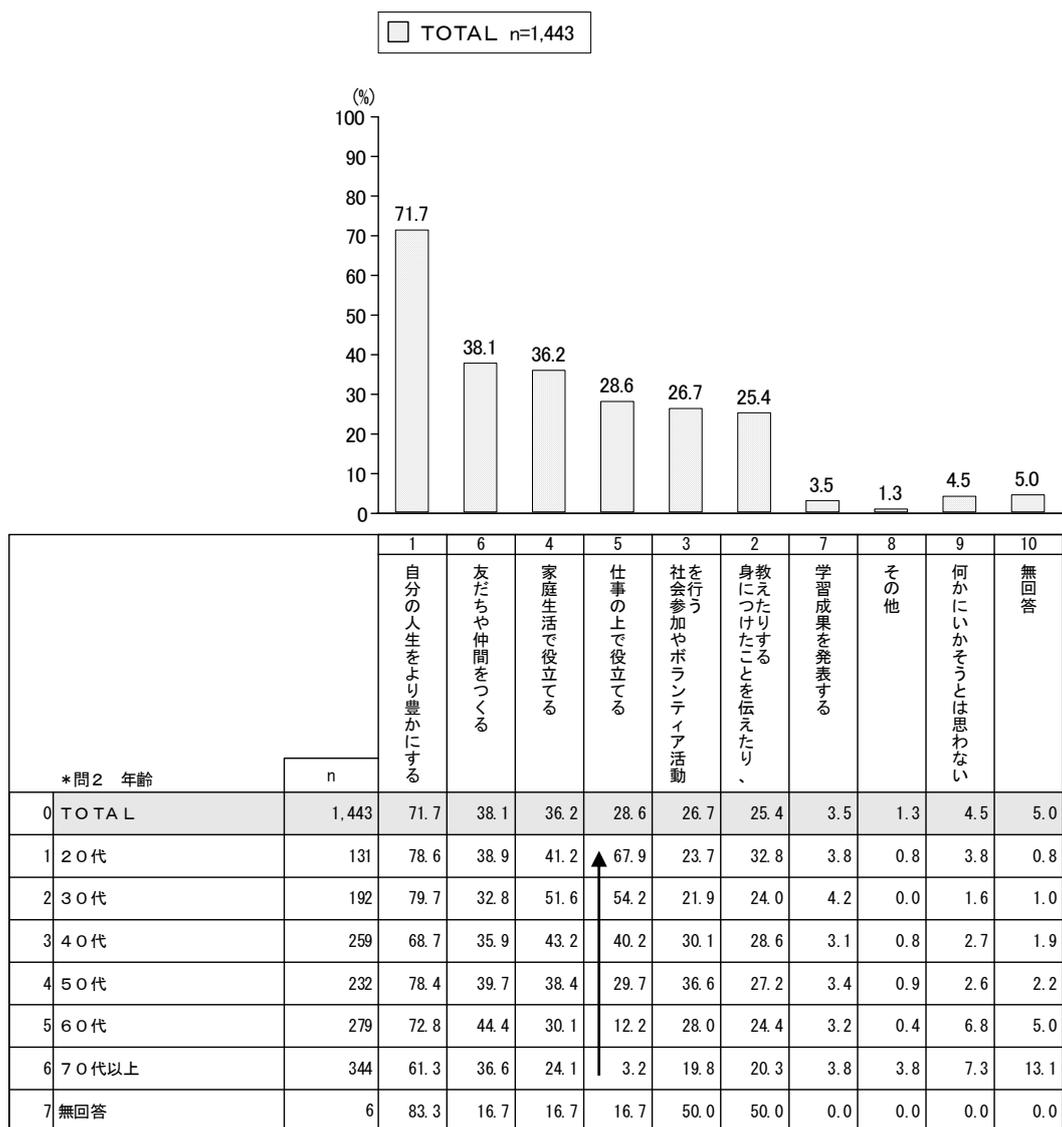


(5) 学習や活動で得た知識・技術の活用方法

問 10 あなたが学習や活動で知識や技術を得たとしたら、どのようにいかしていきたいと思いますか。  
(〇はいくつでも)

学習や活動で得た知識や技術の活用方法として、約7割の人は「自分の人生をより豊かにする」(71.7%)ことを望んでいる。次いで「友だちや仲間をつくる」(38.1%)、「家庭生活で役立てる」(36.2%)の順で続いている。

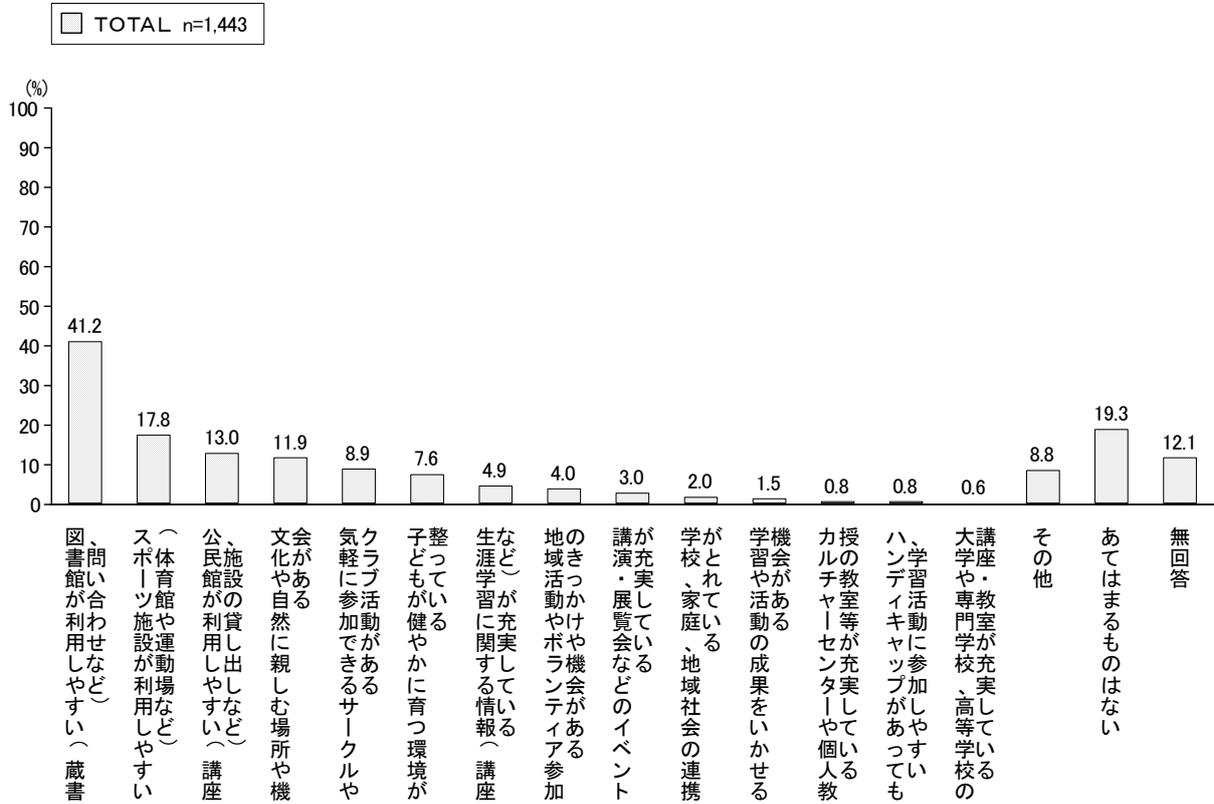
年代別に見ると、「仕事の上で役立てる」と回答した人の割合は年代が若いほど高く、20代では67.9%があげている。



(6) 西東京市の学習環境

問 11 現在の西東京市の学習環境について、あてはまると思うものをお答えください。(○はいくつでも)

現在の西東京市の学習環境については、「図書館が利用しやすい(蔵書、問い合わせなど)」ことをあげる人が41.2%と最も多く、次いで「スポーツ施設が利用しやすい(体育館や運動場など)」が17.8%で続いている。



※選択肢は一部簡略化して記載している。

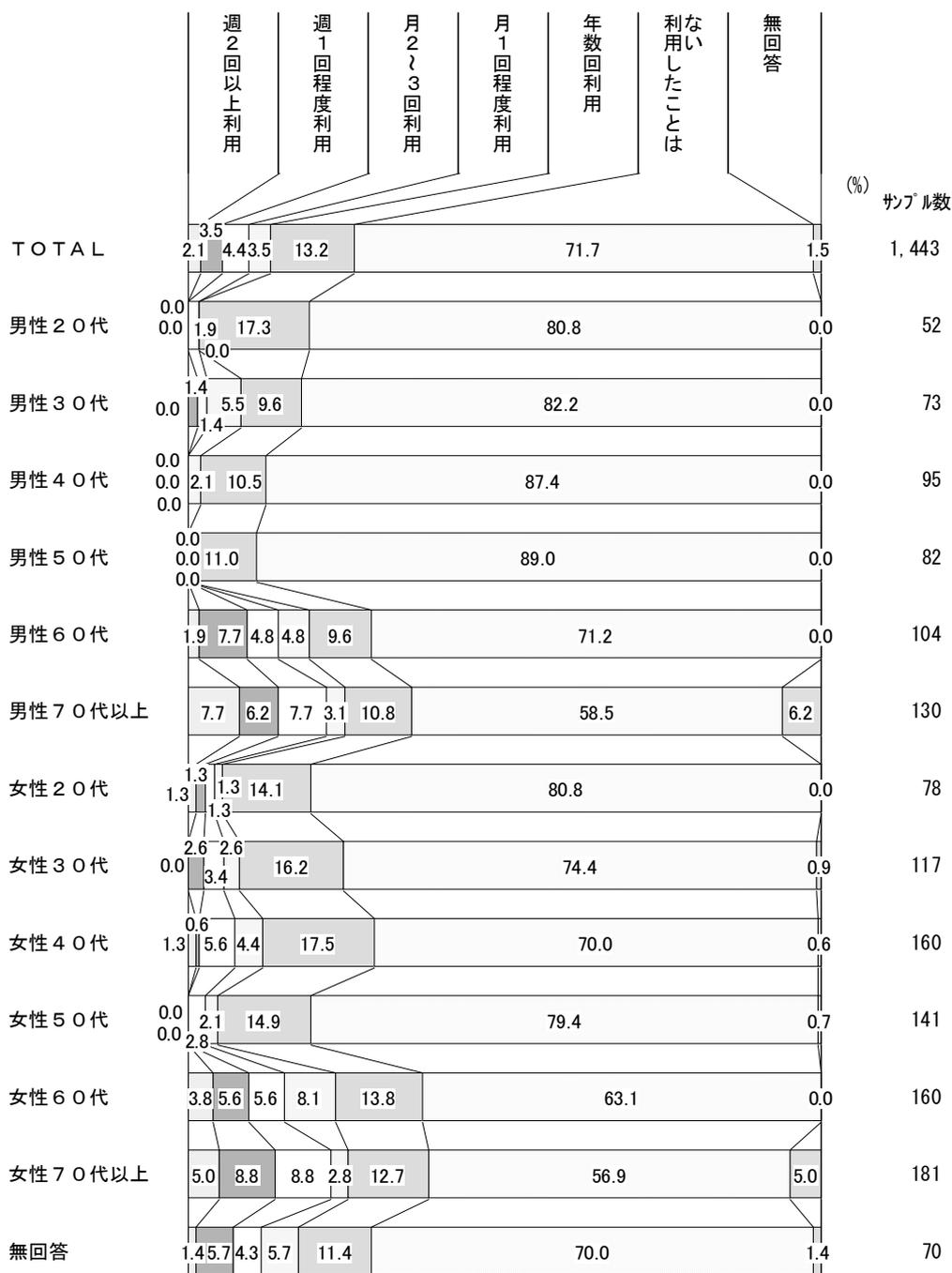
### 3 公民館・図書館の利用状況

#### (1) 公民館の利用状況

問 12 この1年間に、公民館を利用しましたか。また、利用した方は、どの程度利用しましたか。(○は1つ)

この1年間の公民館の利用経験を尋ねたところ、約7割の人は「利用したことはない」(71.7%)と回答している。

性・年代別に見ると、「利用したことはない」と回答した割合が8割未満であるのは、男性では60代(71.2%)と70代以上(58.5%)だけだが、女性では20代を除いていずれの年代でも8割未満となっている。全体的な傾向として、男性よりも女性のほうが利用率が高く、また年代では60代以上の利用率が高くなっていることがわかる。



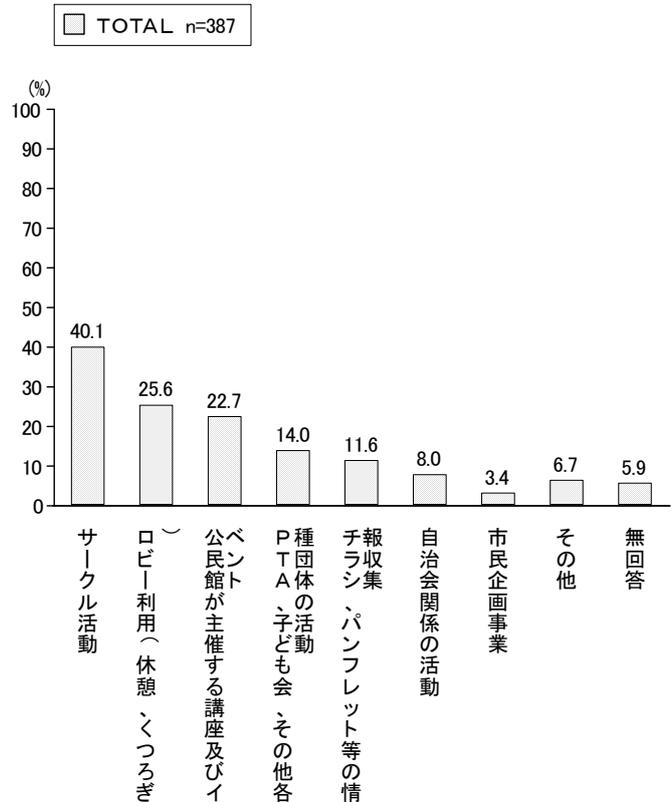
※「週2回以上利用」は、実際の調査では「ほぼ毎日利用」「週4〜5回利用」「週2〜3回利用」として聴取。割合が低いため、まとめて表記している。

## (2) 公民館の利用目的・内容

問 13 公民館を利用する目的・内容は次のうちどれにあたりますか。(〇はいくつでも)

※「この1年間に公民館を利用した」と回答した者

公民館を利用する目的・内容は、「サークル活動」が40.1%と最も多く、次いで「ロビー利用(休憩、くつろぎ)」(25.6%)、「公民館が主催する講座及びイベント」(22.7%)と続いている。

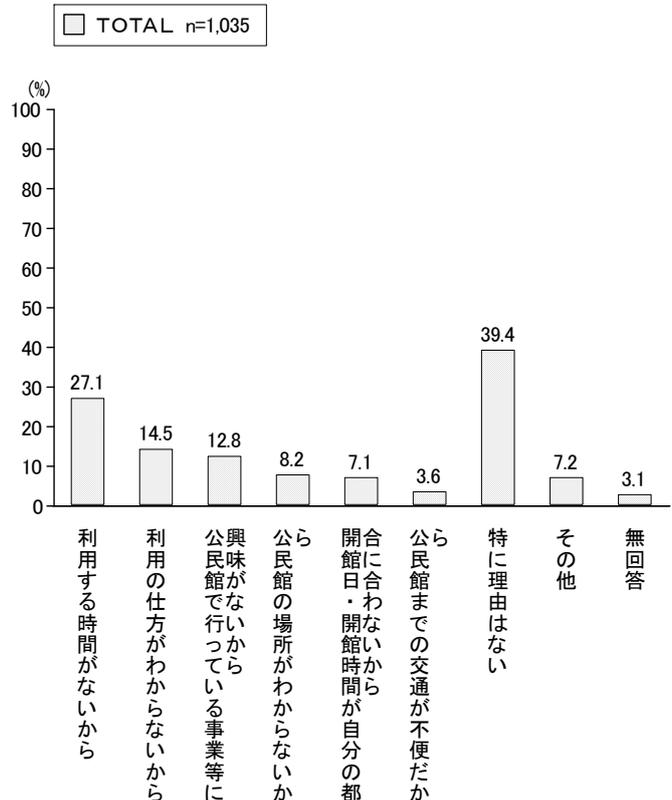


## (3) 公民館を利用しない理由

問 14 公民館を利用しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

※「この1年間に公民館を利用したことがない」と回答した者

公民館を利用しない理由を尋ねたところ、約4割の人は「特に理由はない」(39.4%)と回答しているが、あげられた理由としては、「利用する時間がないから」が27.1%で最も多く、次いで「利用の仕方がわからないから」(14.5%)、「公民館で行っている事業等に興味がないから」(12.8%)と続いている。

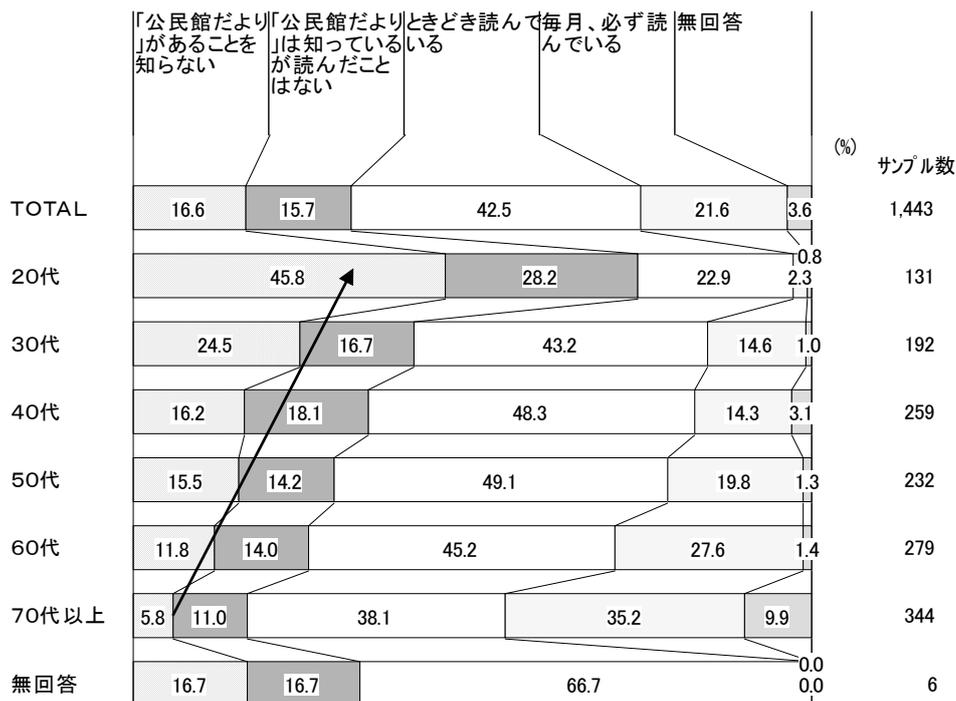


(4) 「公民館だより」の認知状況

問 15 毎月1日に全戸配布される「公民館だより」を読んでいますか。(○は1つ)

公民館だよりを「毎月、必ず読んでいる」人は21.6%、「ときどき読んでいる」は42.5%となっており、合わせると6割以上の人は、公民館だよりを読んだ経験があることがわかる。「公民館だより」は知っているが読んだことはない」人を合わせると、公民館だよりの認知率は約8割である。

年代別に見ると、「公民館だより」があることを知らない」人の割合は、年代が若いほど高く、20代では45.8%となっている。一方、70歳以上では、「毎月、必ず読んでいる」人が35.2%、「ときどき読んでいる」が38.1%で、7割以上の人が公民館だよりを読んだ経験があることがわかる。

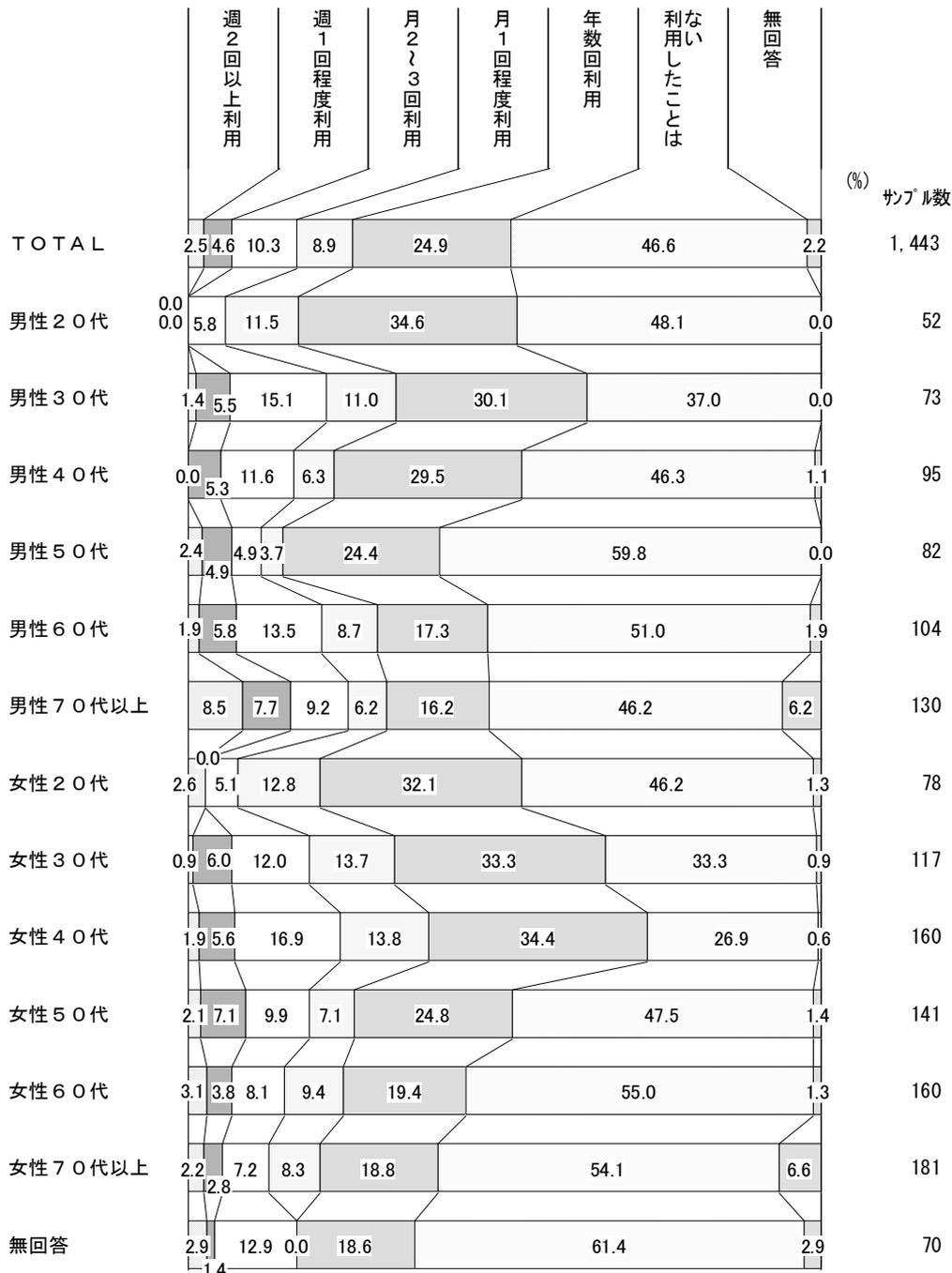


(5) 図書館の利用状況

問 16 この1年間に、市の図書館を利用しましたか。また、利用した方は、どの程度利用しましたか。(○は1つ)

この1年間の図書館の利用経験を尋ねたところ、「利用したことはない」人は46.6%で、半数以上の人は利用した経験がある。

性・年代別に見ると、「利用したことはない」と回答した割合が半数を超えているのは、男性の50代(59.8%)と60代(51.0%)、女性の60代(55.0%)と70代以上(54.1%)となっており、比較的年齢の高い世代の利用経験率が低くなっている。



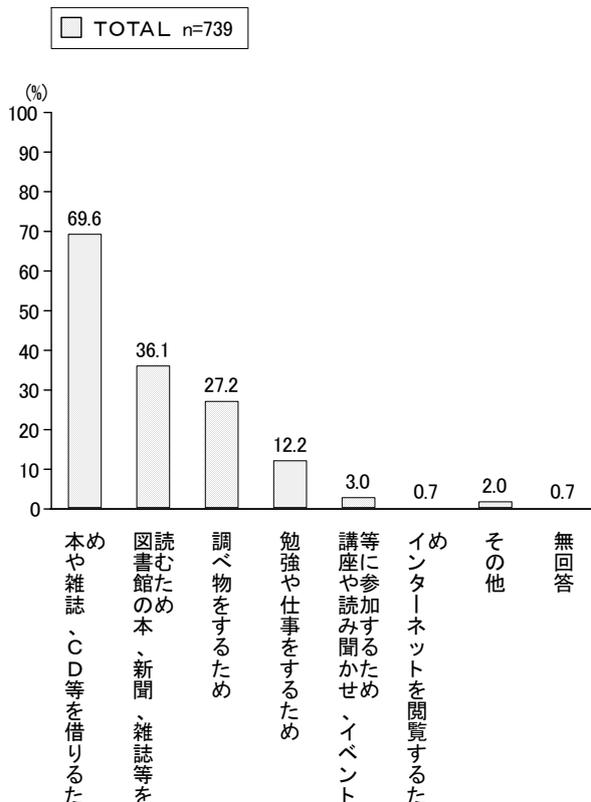
※「週2回以上利用」は、実際の調査では「ほぼ毎日利用」「週4~5回利用」「週2~3回利用」として聴取。割合が低いため、まとめて表記している。

### （６）図書館の利用目的・内容

問 17 図書館を利用する目的・内容は次のうちどれにあたりますか。(○はいくつでも)

※「この1年間に図書館を利用した」と回答した者

図書館を利用する目的・内容は、「本や雑誌、CD等を借りるため」が69.6%と最も多く、次いで「図書館の本、新聞、雑誌等を読むため」(36.1%)、「調べ物をするため」(27.2%)と続いている。

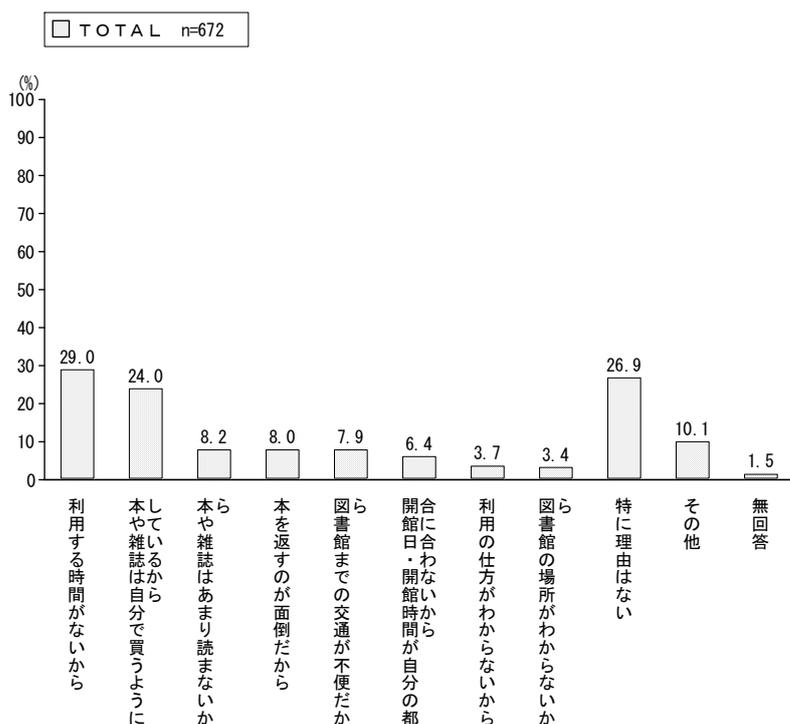


### （７）図書館を利用しない理由

問 18 図書館を利用しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

※「この1年間に図書館を利用したことがない」と回答した者

図書館を利用しない理由としては、「利用する時間がないから」が29.0%と最も多く、次いで「本や雑誌は自分で買うようにしているから」が24.0%で続いている。



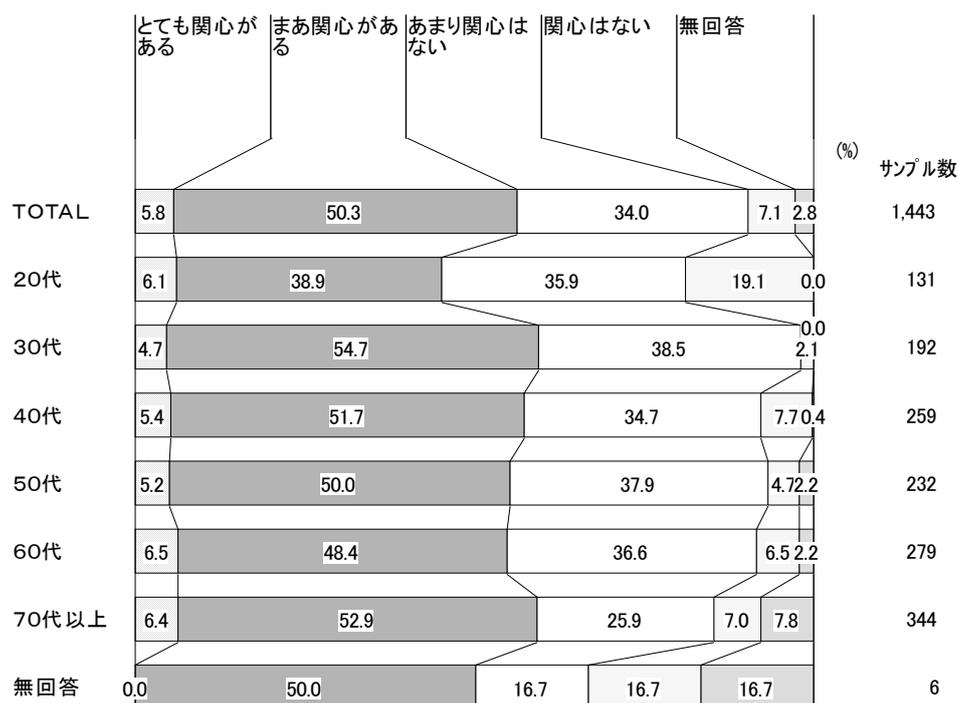
## 4 地域との関わりの状況

### (1) 地域への関心の程度

問 19 あなたは、地域に関心があるほうだと思いますか。(○は1つ)

地域に「とても関心がある」人は 5.8%、「まあ関心がある」は 50.3%で、半数強の人は地域に関心を持っている。

年代別に見ると、30代～70代以上では、いずれも地域に関心がある人が半数を超えるが、20代では関心のある人よりも関心のない人のほうが多くなっている。

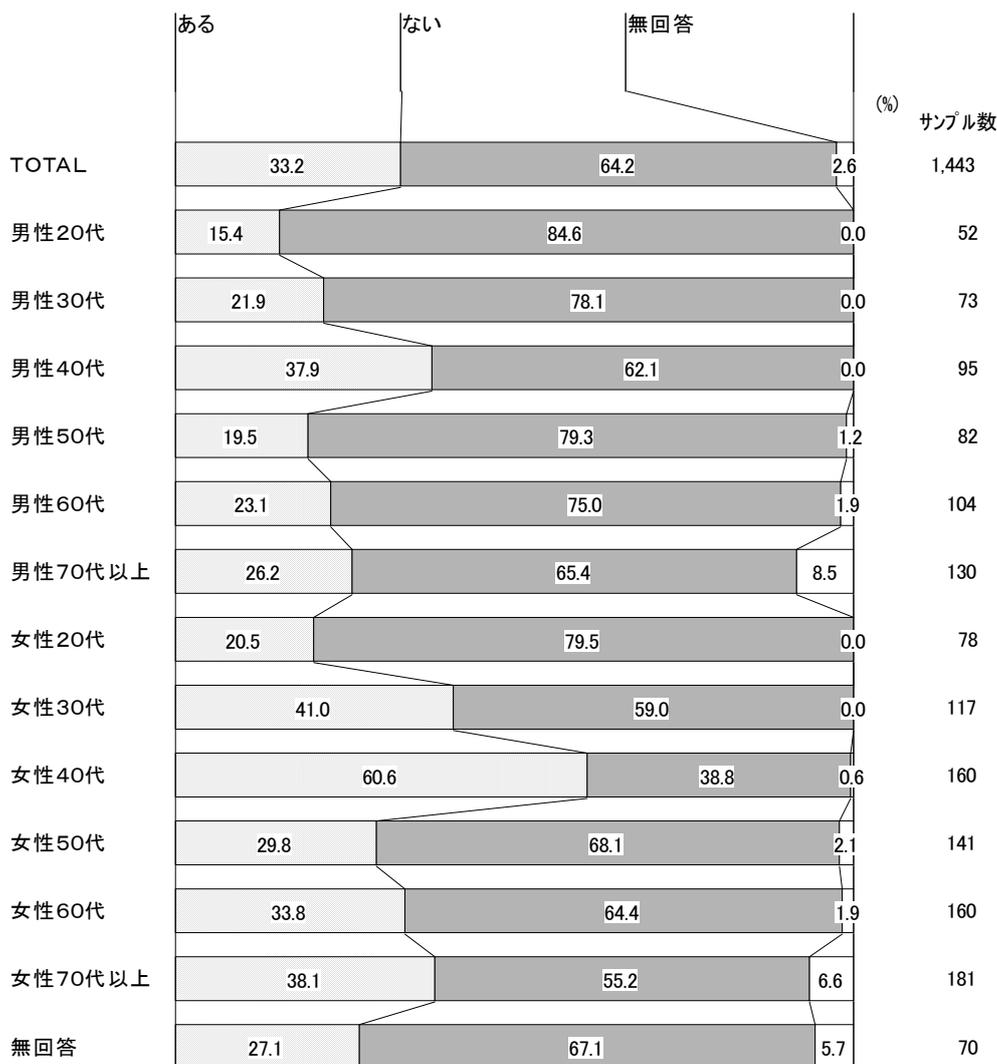


## (2) 地域の子どもたちと接する機会の有無

問 20 ふだん、あなたは地域の子どもたち(小・中学生)と接する機会がありますか。(○は1つ)

ふだん、地域の子どもたち(小・中学生)と接する機会が「ある」人は33.2%で、64.2%は「ない」と回答している。

性・年代別に見ると、男性・女性ともに40代は、他の年代に比べて、地域の子どもたち(小・中学生)と接する機会が「ある」人の割合が高い。特に、女性40代では、接する機会が「ある」人が約6割と多くなっている。



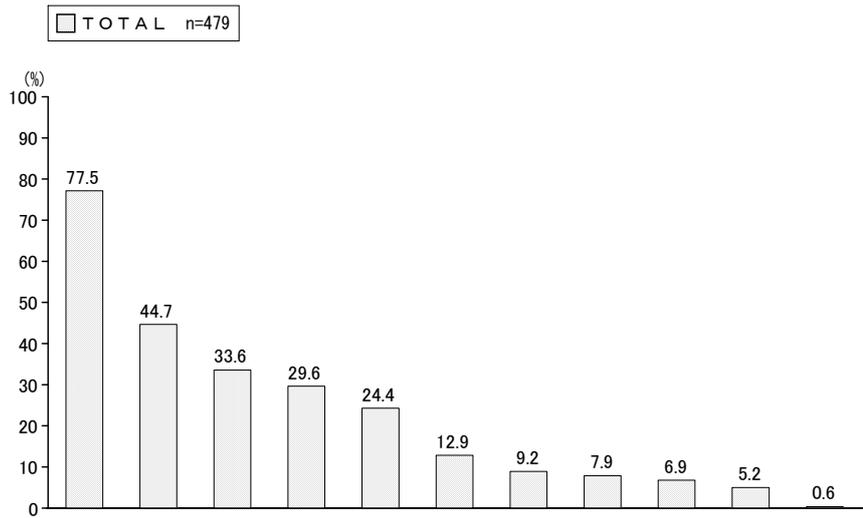
### (3) 地域の子どもたちとの接し方

問 21 地域の子どもたち(小・中学生)とどのように接していますか。(〇はいくつでも)

※「地域の子どもたちと接する機会がある」と回答した者

子どもたち(小・中学生)との接し方としては、「出会ったときは、あいさつをする」が77.5%と最も多く、次いで「出会ったときは、声をかけたり、話をする」(44.7%)、「悪いことをしていることを見たときは、注意する」(33.6%)と続いている。

性別に見ると、「悪いことをしているところを見たときは、注意する」と回答した人の割合は、男性では26.9%、女性では36.8%と、約10ポイント女性のほうが高い。



問 1 性別	n	1	2	3	4	9	8	5	6	7	10	11
		出会うときは、あいさつをする	出会うときは、声をかけた	悪いことをしているところを見たときは、注意する	良いことをしているところを見たときは、ほめる	登下校時や、遊んでいるときなどに見守っている	地域の祭りやイベントで子どもと触れ合っている	子どもが相談に乗っているときに困ったり悩んでいる	子ども会などの地域活動と一緒にしている	スポーツ活動・文化活動などの指導をしている	その他	無回答
0 TOTAL	479	77.5	44.7	33.6	29.6	24.4	12.9	9.2	7.9	6.9	5.2	0.6
1 男性	134	73.9	40.3	26.9	23.9	20.1	11.9	6.0	6.0	12.7	2.2	0.0
2 女性	326	80.1	46.9	36.8	31.6	25.5	13.2	10.7	8.9	4.3	6.7	0.6
3 無回答	19	57.9	36.8	26.3	36.8	36.8	15.8	5.3	5.3	10.5	0.0	5.3

【年代別】

年代	n	1	2	3	4	9	8	5	6	7	10	11
1 20代	25	72.0	40.0	20.0	12.0	12.0	12.0	16.0	16.0	24.0	12.0	0.0
2 30代	65	80.0	38.5	30.8	20.0	26.2	9.2	7.7	4.6	6.2	4.6	1.5
3 40代	135	79.3	37.8	24.4	23.0	23.7	20.7	11.1	14.1	6.7	4.4	0.7
4 50代	60	71.7	35.0	40.0	26.7	25.0	16.7	5.0	8.3	8.3	6.7	0.0
5 60代	80	85.0	47.5	30.0	33.8	18.8	7.5	5.0	2.5	5.0	6.3	0.0
6 70代以上	112	73.2	60.7	48.2	45.5	30.4	8.0	11.6	4.5	4.5	3.6	0.9

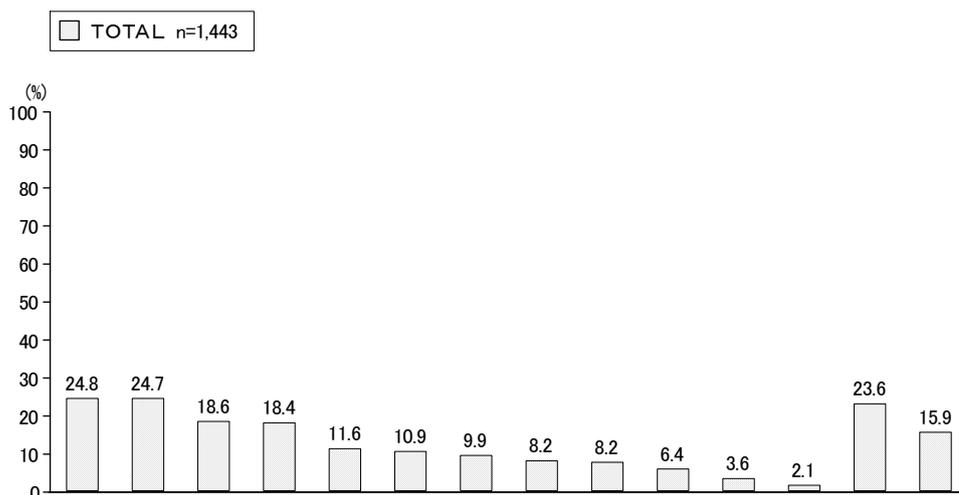
※選択肢は一部簡略化して記載している。

### (4) 地域・社会活動への参加意向

問 22 あなたは、身近な小学校・中学校の取り組みやそこを拠点として行われる地域の活動について、どのようなことなら、参加・協力してもよいと思いますか。(〇はいくつでも)

参加・協力してもよい地域の活動としては、「学校で行われる地域のスポーツ・文化活動」をあげる人が24.8%と最も多く、次いで「学校の行事やイベント」をあげる人が24.7%となっている。

年代別に見ると、20代では「学校で行われる地域のスポーツ・文化活動」(37.4%)や「学校の行事やイベント」(35.9%)以外にも、「学校の授業やクラブ活動・部活動」をあげる人が31.3%と、3割を超え、多くなっている。



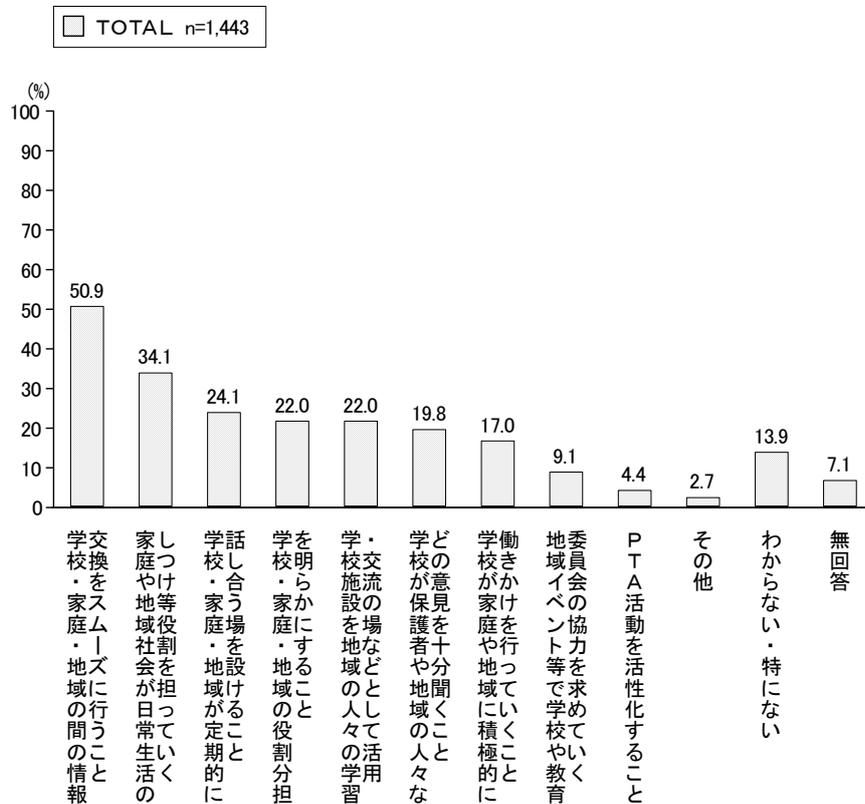
*問2 年齢	n	7	5	11	3	4	9	8	1	6	2	10	12	13	14
		学校で行われる地域のスポーツ・文化活動	学校の行事やイベント	市民同士の交流や、まちづくりに関する活動	児童生徒の体験活動などにおける安全確保やサポート	学校の授業やクラブ活動・部活動	成の子のための非行防止や健全育成のための活動	や行事など企画・実施や土日をいかけた親子イベント	習などへの資料の提供や総合的な学習の時間や調べ学習	ルームなどの施設開放運営や学校図書館やコンピュータ	歴史・人材などの情報提供や地域学習のための情報提供	活動などの広報紙づくりや子ども地域での過ごし方や	その他	特にない	無回答
0 TOTAL	1,443	24.8	24.7	18.6	18.4	11.6	10.9	9.9	8.2	8.2	6.4	3.6	2.1	23.6	15.9
1 20代	131	37.4	35.9	19.8	22.1	31.3	12.2	10.7	16.0	9.9	9.9	6.9	1.5	19.1	6.9
2 30代	192	37.5	33.3	19.8	28.1	21.4	14.6	26.0	17.2	12.0	8.3	8.9	1.0	17.7	6.3
3 40代	259	31.3	36.3	14.7	22.8	15.1	12.7	17.0	10.0	6.9	4.6	3.5	1.9	21.6	9.3
4 50代	232	27.6	20.3	24.6	18.5	11.6	9.9	7.3	9.1	13.4	8.6	3.9	2.2	22.4	12.9
5 60代	279	20.8	19.4	21.9	18.3	3.6	11.5	2.9	3.6	8.2	6.5	1.4	1.1	25.1	15.4
6 70代以上	344	9.6	14.5	13.4	8.4	2.3	7.3	2.9	2.3	2.6	3.8	1.2	3.8	29.9	32.0
7 無回答	6	16.7	0.0	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

※選択肢は一部簡略化して記載している。

(5) 学校・家庭・地域の連携・協力を深める上で大切なこと

問 23 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なこととしては、「学校・家庭・地域の間の情報交換をスムーズに行うこと」をあげる人が 50.9%と最も多く、次いで「家庭や地域社会が日常生活におけるしつけ等役割を担っていく」が 34.1%で続いている。



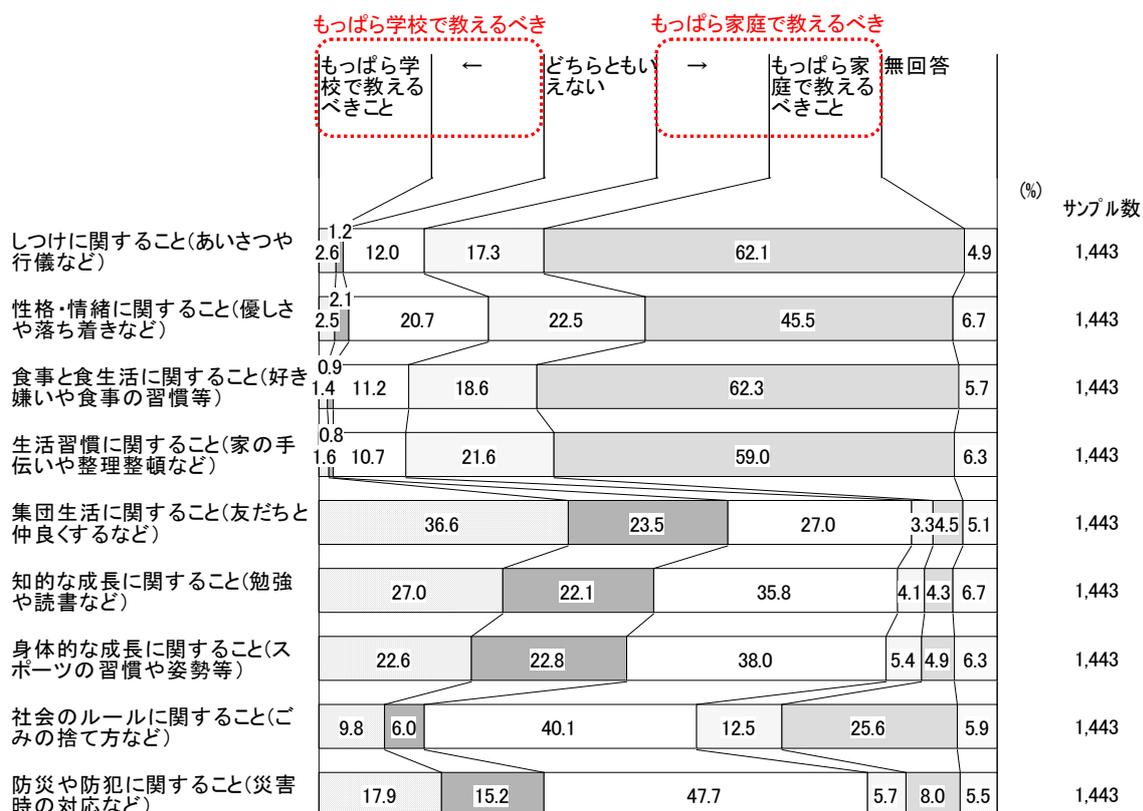
※選択肢は一部簡略化して記載している。

## 5 家庭の役割について

### (1) 家庭で身につけるべきこと

問 24 次の(ア)～(ケ)の項目はそれぞれ、もっぱら学校で教えるべきこと、もっぱら家庭で教えるべきこと、のいずれだと思いますか。(○は(ア)～(ケ)にそれぞれ1つずつ)

半数以上の人々が、もっぱら学校で教えるべきと考えているのは、「集団生活に関すること（友だちと仲良くするなど）」(60.1%)、もっぱら家庭で教えるべきと考えているのは、「しつけに関すること（あいさつや行儀など）」(79.4%)、「性格・情緒に関すること（優しさや落ち着きなど）」(68.0%)、「食事と食生活に関すること（好き嫌いや食事の習慣等）」(80.9%)、「生活習慣に関すること（家の手伝いや整理整頓など）」(80.6%)である。

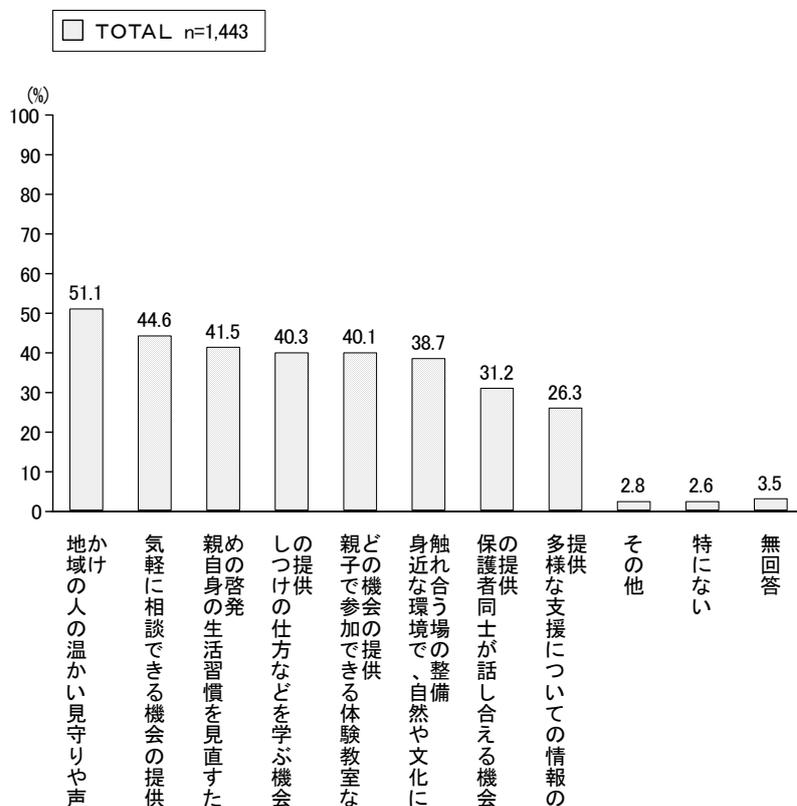


※選択肢は一部簡略化して記載している。

## (2) 家庭教育を強化するために必要な支援

問 25 「親が子どもに教え、子どもを育む力」を養うために、必要な支援は何だと思いますか。(〇はいくつでも)

家庭教育を強化するために必要な支援としては、「地域の人の温かい見守りや声かけ」をあげる人が51.1%と最も多く、次いで「気軽に相談できる機会の提供」(44.6%)、「親自身の生活習慣を見直すための啓発」(41.5%)と続いている。



子どもと同居している人について見ると、未就学の子どもがいる人では、「身近な環境で自然や文化に触れ合う場の整備」(54.3%)、「地域の人の温かい見守りや声かけ」(51.7%)、「親子で参加できる体験教室などの機会の提供」(51.7%)がそれぞれ半数を超え、多くあげられている。

(%)

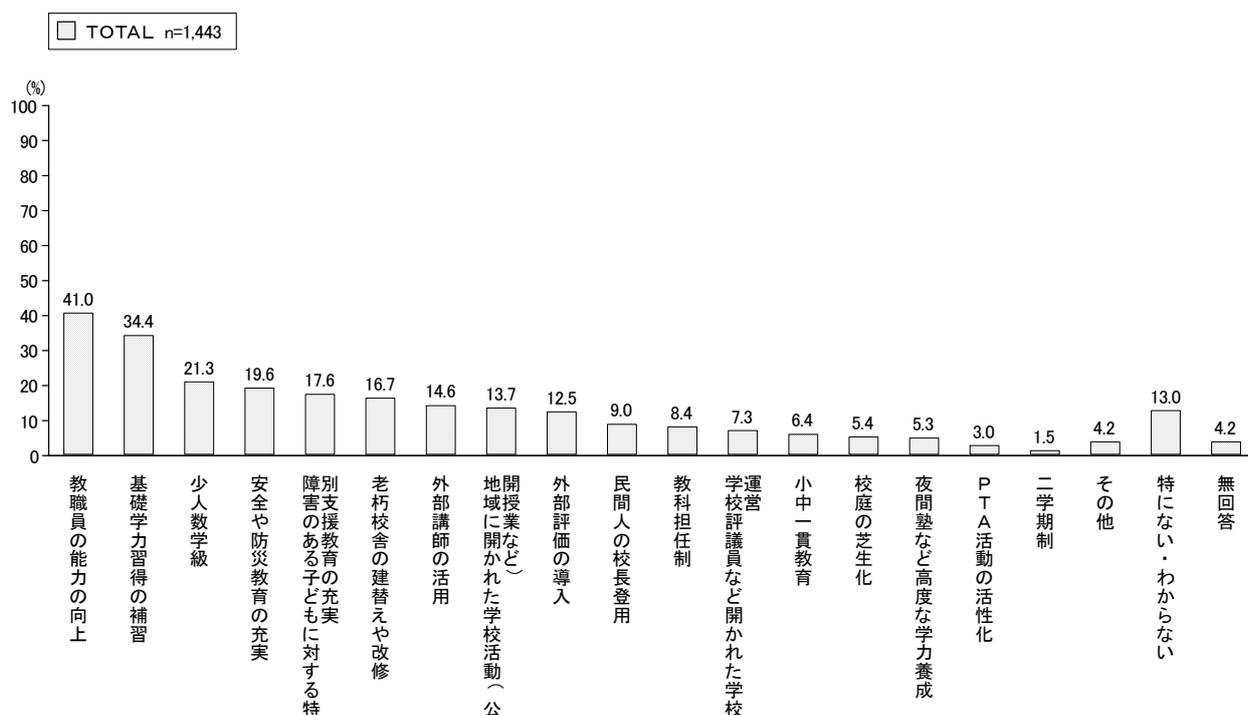
同居者	n	地域の人の温かい見守りや声かけ	気軽に相談できる機会の提供	親自身の生活習慣を見直すための啓発	しつけの仕方などを学ぶ機会の提供	親子で参加できる体験教室などの機会の提供	身近な環境で、自然や文化に触れ合う場の整備	保護者同士が話し合える機会の提供	多様な支援についての情報の提供	その他	特にない	無回答
子ども(高校生以上)	431	49.9	44.8	41.1	38.1	41.8	36.2	32.0	28.5	1.9	1.9	2.3
子ども(中学生)	100	36.0	36.0	31.0	34.0	28.0	40.0	27.0	22.0	5.0	2.0	1.0
子ども(小学生)	144	48.6	36.8	25.7	29.2	37.5	43.1	23.6	25.7	2.8	2.8	0.7
子ども(未就学)	151	51.7	41.1	30.5	27.8	51.7	54.3	30.5	34.4	3.3	2.0	2.0

## 6 学校教育について

### (1) 公立学校教育で取り組んでほしいこと

問 26 今後、西東京市の公立学校教育で取り組んでほしいことは、どれですか。次の中から主なもの3つをお選びください。(〇は3つまで)

西東京市の公立学校教育で取り組んでほしいこととしては、「教職員の能力の向上」をあげる人が41.0%と最も多く、次いで「基礎学力習得の補助」(34.4%)、「少人数学級」(21.3%)と続いている。



子どもと同居している人について見ると、「老朽校舎の建替えや改修」に取り組んでほしいと考えている人は、小学生・未就学の子どもの同居している人では3割以上見られる。また、「小中一貫教育」と「校庭の芝生化」の2項目については、未就学の子どもの同居している人では、1割以上の人が希望している。

(%)

【同居者】	n	教職員の能力の向上	基礎学力習得の補助	少人数学級	安全や防災教育の充実	障害のある子どもに対する特別支援教育の充実	老朽校舎の建替えや改修	外部講師の活用	地域に開かれた学校活動(公開授業など)	外部評価の導入	民間人の校長登用
子ども(高校生以上)	431	47.8	39.0	24.8	18.6	16.7	14.4	15.1	13.7	12.5	9.7
子ども(中学生)	100	38.0	35.0	30.0	21.0	13.0	28.0	19.0	6.0	13.0	17.0
子ども(小学生)	144	41.7	36.1	40.3	22.2	13.9	34.7	10.4	9.0	9.0	11.1
子ども(未就学)	151	45.7	25.8	23.2	29.1	14.6	37.1	19.9	18.5	15.9	6.6

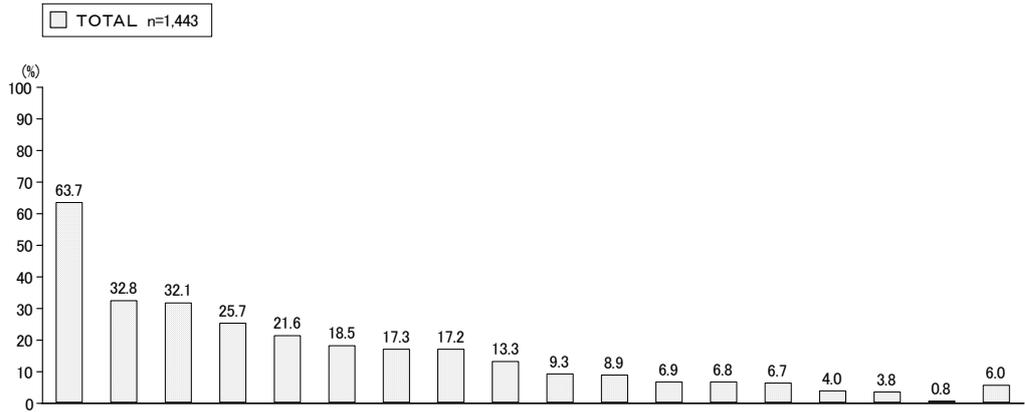
【同居者】	n	教科担任制	学校評議員など開かれた学校運営	小中一貫教育	校庭の芝生化	夜間塾など高度な学力養成	PTA活動の活性化	二学期制	その他	特にない・わからない	無回答
子ども(高校生以上)	431	5.6	8.6	5.3	3.9	6.3	3.0	1.6	3.2	11.8	3.5
子ども(中学生)	100	3.0	8.0	4.0	5.0	18.0	2.0	2.0	8.0	10.0	1.0
子ども(小学生)	144	6.9	6.3	7.6	9.7	12.5	0.7	2.1	7.6	3.5	1.4
子ども(未就学)	151	9.3	7.3	10.6	13.9	7.3	0.0	0.0	7.9	4.0	0.7

## (2) 学校教育で教えることで重要なこと

問 27 西東京市の学校教育で子どもに教えることとして、重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

学校教育で子どもに教えることで重要なこととしては、「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」をあげる人が 63.7%と特に多く、次いで「社会生活に必要な常識やマナー」(32.8%)、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」(32.1%)と続いている。

年代別に見ると、「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」を重要だと思う人の割合は、年代が上がるほど高く、「表現力やコミュニケーション力」を重要だと思う人の割合は、年代が若い世代ほど高くなる傾向にある。

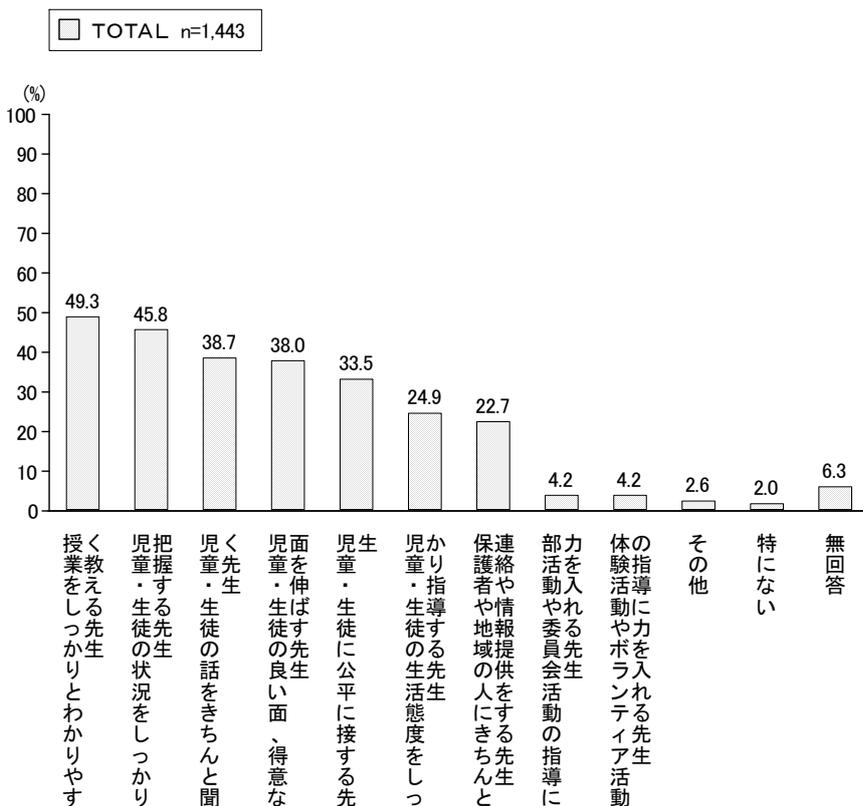


*問2 年齢	n	1	4	3	2	5	13	6	9	12	10	11	7	8	16	15	14	17	18
0 TOTAL	1,443	63.7	32.8	32.1	25.7	21.6	18.5	17.3	17.2	13.3	9.3	8.9	6.9	6.8	6.7	4.0	3.8	0.8	6.0
1 20代	131	57.3	32.1	29.8	29.8	22.9	11.5	22.1	29.8	8.4	8.4	12.2	9.9	4.6	9.2	3.1	6.9	1.5	0.8
2 30代	192	59.4	28.1	42.2	34.4	25.5	11.5	16.7	24.0	13.0	3.6	11.5	8.3	4.7	4.7	4.2	5.2	0.0	3.6
3 40代	259	64.1	29.0	36.3	31.7	25.9	17.0	16.2	23.9	9.7	8.9	14.3	9.7	4.6	6.2	3.9	4.2	1.2	3.9
4 50代	232	65.5	33.6	29.7	25.4	25.4	22.0	17.7	16.4	14.2	7.8	5.2	6.9	6.5	8.6	3.0	3.4	1.7	2.2
5 60代	279	65.6	36.6	33.3	20.8	19.0	22.9	13.3	12.5	15.8	13.6	8.2	3.6	8.2	7.5	4.7	3.6	0.4	6.8
6 70代以上	344	66.0	35.5	24.4	18.6	15.4	20.6	19.5	7.8	15.7	10.5	5.5	5.5	9.6	5.5	4.4	2.0	0.6	12.5
7 無回答	6	33.3	16.7	50.0	50.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

### (3) 望ましい小学校・中学校の教師像

問 28 西東京市の小中学校の先生は、どのような先生が望ましいと思いますか。(〇は3つまで)

望ましい小学校・中学校の教師像としては、「授業をしっかりとわかりやすく教える先生」をあげる人が 49.3%と最も多く、次いで「児童・生徒の状況をしっかりと把握する先生」が 45.8%で続いている。

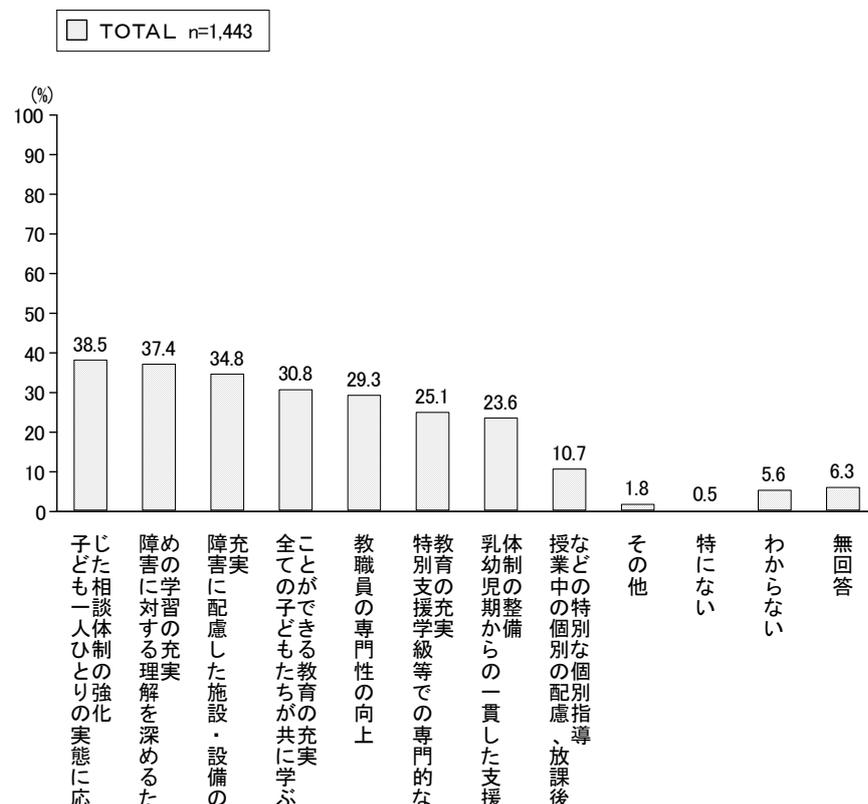


※選択肢は一部簡略化して記載している。

### (4) 障害のある子どもたちの教育を充実するために必要な取組

問 29 あなたは、障害のある子どもたちの教育の充実のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

障害のある子どもたちの教育の充実のために必要な取り組みとしては、「子ども一人ひとりの実態に応じた相談体制の強化」をあげる人が 38.5%と最も多く、次いで「障害に対する理解を深めるための学習の充実」(37.4%)、「障害に配慮した施設・設備の充実」(34.8%)と続いている。



※選択肢は一部簡略化して記載している。

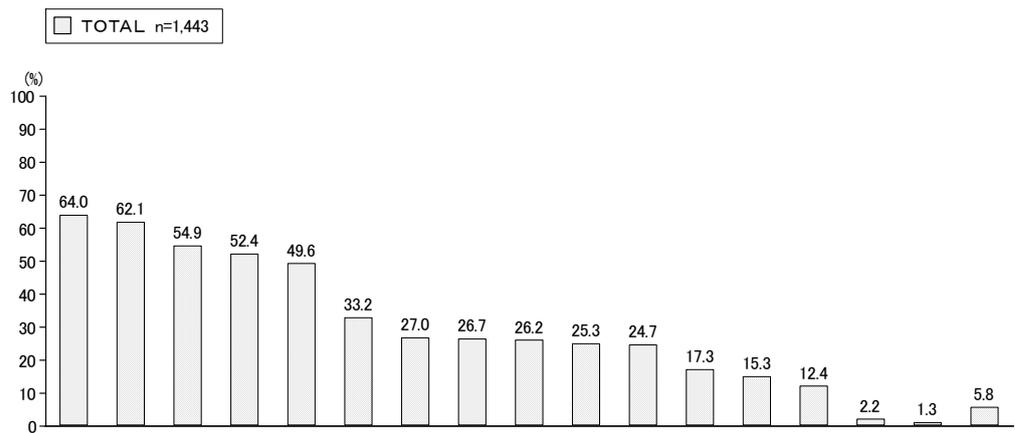
## 7 西東京市の子どもたちについて

### (1) 西東京市の子どもたちになってもらいたい将来像

問 30 あなたは、西東京市の子どもたちに、将来どのような人になってもらいたいと思いますか。(〇はいくつでも)

西東京市の子どもたちに、将来どのような人になってもらいたいかと尋ねたところ、「優しく思いやりのある人」と回答した人が 64.0%と最も多く、次いで「相手の立場に立って考えられる人」(62.1%)、「自分の頭で考え、判断し、行動できる人」(54.9%)と続いている。

性別に見ると、「相手の立場に立って考えられる人」(男性 55.6%、女性 67.0%)と「夢、目標を持っている人」(男性 27.6%、女性 37.0%)の2項目は、男性に比べて女性のほうが約 10 ポイント高くなっている。



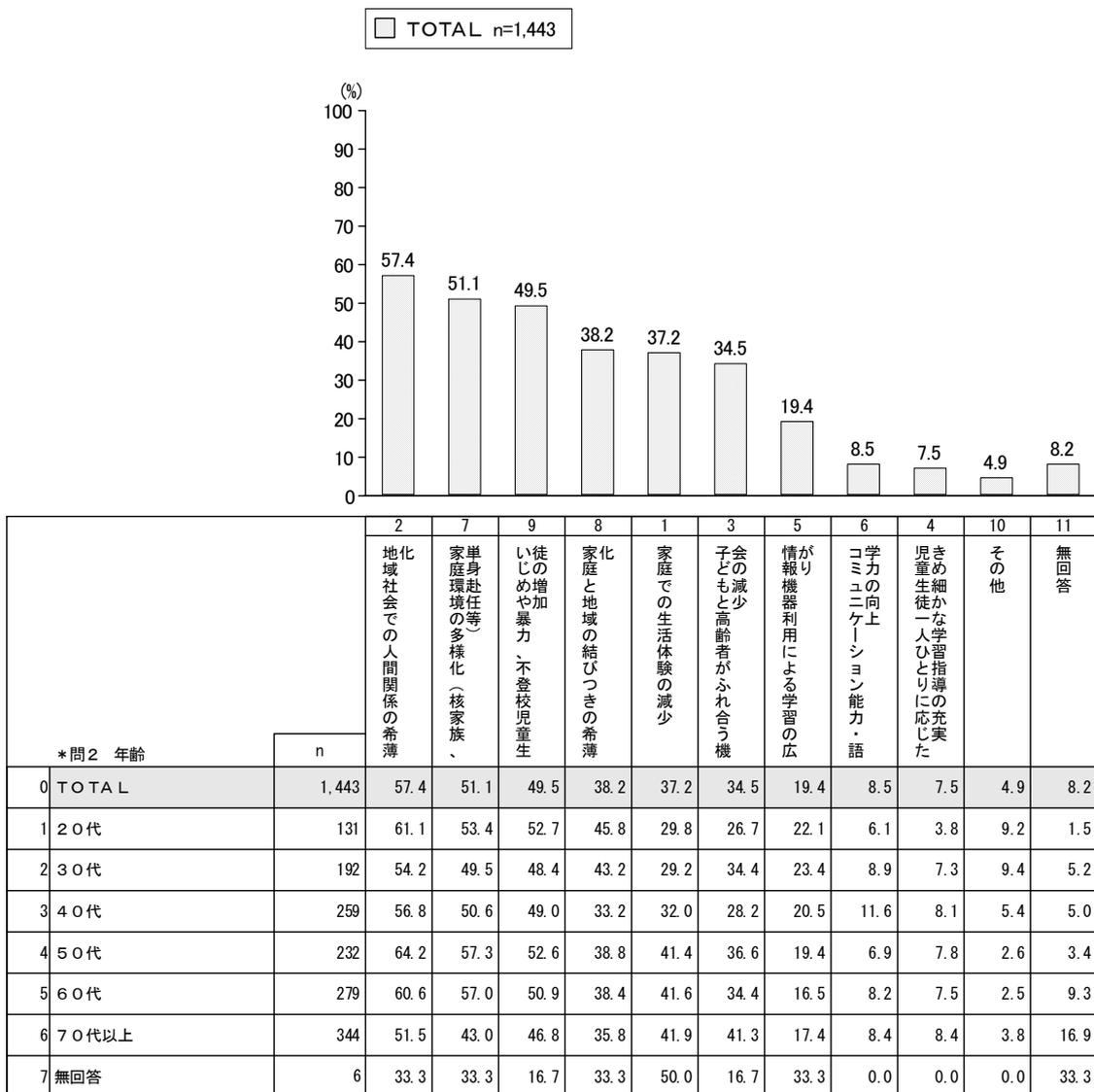
問1 性別	n	5	12	10	6	3	9	14	7	11	13	4	8	2	1	15	16	17
		優しく思いやりのある人	相手の立場に立って考えられる人	自分頭で考え、判断し、行動できる人	家族や友達を大切に人	人の意見をきちんと人	夢、目標を持っている人	社会の役に立っている人	自分から進んで行動を起こせる人	周りの人をサポートできる人	信頼される人	いろいろなことにチャレンジする人	ユニークで想像力が豊かな人	尊敬される人	リーダーシップのある人	その他	わからない	無回答
0 TOTAL	1,443	64.0	62.1	54.9	52.4	49.6	33.2	27.0	26.7	26.2	25.3	24.7	17.3	15.3	12.4	2.2	1.3	5.8
1 男性	536	63.1	55.6	51.9	48.1	45.7	27.6	24.3	27.1	25.7	24.3	24.6	18.3	15.1	15.3	2.6	1.5	6.0
2 女性	837	65.6	67.0	57.0	55.0	52.1	37.0	28.7	26.5	26.4	26.2	25.6	17.2	15.4	10.5	2.2	1.2	5.3
3 無回答	70	52.9	52.9	52.9	54.3	50.0	30.0	27.1	25.7	27.1	22.9	15.7	11.4	15.7	12.9	0.0	1.4	10.0

## (2) 西東京市の子どもたちを取り巻く環境の変化

問 31 子どもたちを取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきたと思いますか。(〇はいくつでも)

子どもたちを取り巻く環境の変化について尋ねたところ、「地域社会での人間関係の希薄化」と回答した人が57.4%と最も多く、次いで「家庭環境の多様化(核家族、単身赴任等)」(51.1%)、「いじめや暴力、不登校児童生徒の増加」(49.5%)と続いている。

年代別に見ると、「家庭と地域の結びつきの希薄化」をあげる人の割合は、20代・30代では4割を超えているが、40代以上では3割台となっている。一方、「家庭での生活体験の減少」をあげる人の割合は20代～40代では約3割であるが、50代以上では約4割と高くなっている。



※選択肢は一部簡略化して記載している。

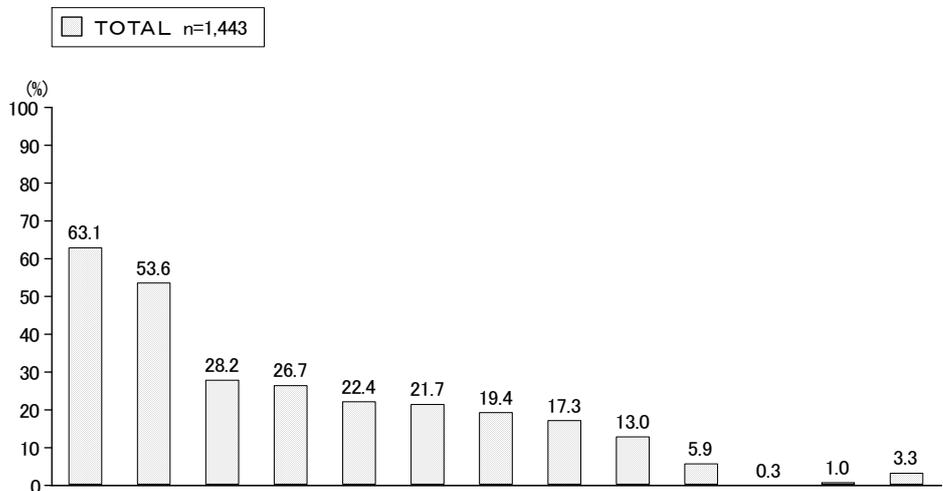
## 8 いじめや不登校問題について

### (1) いじめや不登校等の防止のために必要な対策

問 32 あなたは、いじめや不登校などの問題を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(○は3つまで)

いじめや不登校などの問題を防止するために必要な対策としては、「親が子どもを見守り、実態を把握すること」をあげる人が63.1%と最も多く、次いで「学校の先生が児童・生徒を観察し状況を把握すること」が53.6%で続いている。

性別に見ると、女性に比べて男性が5ポイント以上高い項目は、「学校の先生がいじめ等の問題行動に厳しく指導すること」(男性34.9%、女性24.1%)と「親が家庭で厳しくしつけること」(男性17.7%、女性9.8%)の2項目である。反対に、男性に比べて女性が5ポイント以上高い項目は、「親が子どもを見守り、実態を把握すること」(男性58.6%、女性66.4%)と「専門の相談員に、いつでも悩みを相談できること」(男性20.0%、女性30.1%)の2項目である。



問1 性別	n	1	4	5	7	3	6	8	9	2	10	11	12	13
		親が子どもを見守り、実態を把握すること	学校の先生が児童・生徒を観察し状況を把握すること	学校の先生がいじめ等の問題行動に厳しく指導すること	専門の相談員に、いつでも悩みを相談できること	学校の先生がいじめ等の問題行動に厳しく指導すること	学校や家庭において情報モラル教育の充実を図ること	学校において道徳教育の充実を図ること	学校と警察等の関係機関との連携を強化すること	地域で子どもたちを見守り、注意するなど	親が家庭で厳しくしつけること	その他	特にない	わからない
0 TOTAL	1,443	63.1	53.6	28.2	26.7	22.4	21.7	19.4	17.3	13.0	5.9	0.3	1.0	3.3
1 男性	536	58.6	52.1	34.9	20.0	19.4	22.6	21.6	16.0	17.7	6.7	0.4	1.5	3.9
2 女性	837	66.4	55.1	24.1	30.1	24.0	20.5	18.3	18.0	9.8	5.7	0.2	0.8	2.5
3 無回答	70	57.1	48.6	25.7	37.1	25.7	28.6	15.7	17.1	15.7	1.4	0.0	0.0	8.6

※選択肢は一部簡略化して記載している。

同居している子どもがいる人と、いない人を比べて見ると、「親が家庭で厳しくしつけること」と回答した人の割合は、同居している子どもがいる人では9.4%、いない人では16.0%となっている。

【同居者】	n	(%)												
		親が子どもを見守り、実態を把握すること	学校の先生が児童・生徒を観察し状況を把握すること	学校の先生がいじめ等の問題行動に厳しく指導すること	専門の相談員に、いつでも悩みを相談できること	学校や家庭において情報モラル教育の充実を図ること	学校において道徳教育の充実を図ること	学校と警察等の関係機関との連携を強化すること	地域で子どもたちを見守り、注意するなど	親が家庭で厳しくしつけること	その他	特にない	わからない	無回答
同居している子どもがいる	688	69.6	56.1	29.5	27.8	23.4	19.3	19.5	16.3	9.4	6.0	0.1	0.3	1.9
同居している子どもはいない	745	57.3	51.7	27.0	25.6	21.7	23.9	19.6	18.1	16.0	5.8	0.4	1.7	4.3

## 9 意見・要望等（自由回答）

※原文通りに記載

調査票の最後に、学習や活動、学校教育等に関する意見や要望の自由記入欄を設けたところ、392名の記入があった。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介する。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を紹介するよう心がけた。

### 《学習や活動について》

- ・ 高齢者向け学習会（健康や老後生活）等公民館や福社会館で実施してほしい。（男性 70 代以上）
- ・ 土・日・祝日・夜間でも受講料が安く、わかりやすい講座を作ってほしい。（女性 30 代）
- ・ 資格取得のための講座などがあれば良いと思う。（男性 30 代）
- ・ 気軽に生涯学習に参加できる場を作って頂きたいです。また、地域でつながりができる場も作って頂きたいです。（女性 20 代）
- ・ ひきこもっている老人（1 人暮らしなど）が参加しやすいサークルの企画・人気があつてなかなか入れないサークルは 1 年交代にして、新しい人達が参加出来るようにしてほしい。（女性 60 代）
- ・ 運動場が少ない気がします。スポーツを通しての人間形成も必要だと感じます。（男性 30 代）
- ・ 生涯学習活動やサークル活動を行う場所が少なく、困っている団体が多い。公共施設を柔軟に運用することで、工夫できないものかと思う。（女性 50 代）
- ・ 学習や活動の場が、保谷方面に片寄っていて向台町近辺では少ないため、非常に不便に感じています。（女性 30 代）
- ・ 生涯学習・スポーツなどについては、市の施設で実施しているものは行きたくても土・日・夜間のものがなく参加できません。社会人に配慮した曜日・時間設定をお願いします。（男性 50 代）
- ・ 健診で運動不足と指摘されておりますが、なかなか市で開催する各種活動とスケジュールが合いません。可能であれば、帰宅後、あるいは、休日にしか参加できない労働者を対象にしたイベントを継続的に催していただければ重い腰を上げる方も増えていくのではないのでしょうか。（男性 50 代）
- ・ 学習やボランティア等をしたい時にすぐ出来る体制が不充分だと思います。たとえば単発的に今週は何曜日の午後に 2 時間とかボランティアをしたいと考えた時に、市内の、たとえば介護施設で「おむつたたみ」の人数が足りないといったようなことがネットで見られて、申し込みできるようなシステムがあればいいのにと思います。（女性 60 代）
- ・ 子供が小さいので、保育施設等が備わっていないと、なかなか自身の学習活動は出来ないと思います。一時保育もあります、確実に利用できる訳ではないので。（女性 30 代）
- ・ 生涯学習を通して生きがいのある西東京市にして下さい。市には専門知識や経験豊富な方が沢山住んでいると思うので、そのような方々が教育に参加できるシステムがあると良い。（男性 50 代）
- ・ 自分自身に時間をかけることができる様になったら、いろいろなチャレンジをしたいと考えています。その時に、健康維持・趣味的な活動には是非参加させていただきたい。（女性 60 代）
- ・ 一年後退職したら、得意な分野でボランティアをしたいと思っています。少しでも地域の方のお役に立てたら嬉しいです。（女性 60 代）

### 《学習や活動に関する情報について》

- ・ サークルの情報をもっと下さい。（男性 30 代）
- ・ いろいろなサークルの紹介・情報を知りたいと思いますが、なかなか目にとまりません。どこで情報を入れたらいいかが、もっと分かるとういと思います。（男性 50 代）
- ・ 色々な情報を紙面で情報発信して欲しいです。（女性 40 代）
- ・ 公民館やスポーツ施設でのサークルや習い事、講習などは、もっとシンプルな一覧があつたらあり

がたいです。(女性 30 代)

### 《公民館について》

- ・ 週に定期的に公民館に行き、仲間と話すこと、家族以外の方と、そして身近な地域で、学べることは、とてもありがたいことで、公民館の活動で人生が豊になりました。(女性 70 代以上)
- ・ 公民館の音楽活動に参加して 20 年以上になります。お陰で友達の輪が広がり、楽しく心豊かな時を過ごしています。近頃はピアノがある部屋取りが大変な現状が続き悩みの種です。(女性 70 代以上)
- ・ 公民館だよりをいつも見っていますが、講座の内容がありきたりというか、昔からやっているもので、なかなかやりたいものが見つからず、残念に思っています。(女性 40 代)
- ・ 公民館などで行っている行事（西東京公民館だより）に参加したくても申し込みの定員が 20 人～25 人位が多く高齢者は気おくれします。もう少し自由参加を増やしてほしい。(無回答)
- ・ 公民館・地区会館を有料して、本当に価値あるサークル活動を優先するべきだと思います。(有料にしても、それほど負担は大きくないし、市の財政にもプラスになる) また、市主催の講座等を充実し、公民館活動の質的向上を図るべき。(男性 70 代以上)
- ・ 公民館の事業の企画について、専門性の高い、社会教育主事資格をもつ、専任の職員を配置してほしい。(女性 40 代)

### 《図書館について》

- ・ 図書館は 9 時から開けてほしい。(女性 40 代)
- ・ 図書館をもっと利用したいと思っていますが、学習室(机)が少なく、ほとんど利用出来ません。住いから遠くの図書館を利用するのも不便ですし、施設の平均化をお願いしたい。(女性 50 代)
- ・ 図書館での勉強スペースを多く作ってほしいです。谷戸図書館にラウンジのようなスペースはありますが、休憩スペースのような場所は人声で勉強はできる所ではないので。(女性 20 代)
- ・ 図書館の学習スペースの充実に力を入れて頂けると嬉しいです。落ち着いて「学習」する「環境」を提供することは、とても大切なことだと思います。(子供にも。大人にも。)(女性 40 代)
- ・ 図書館を中心とする情報提供は更に充実させる様配慮願いたい。(男性 60 代)
- ・ 大学図書館からのその借り出しが可能な制度を希望します。(男性 60 代)
- ・ 保谷駅前図書館が一番近くてアクセスが良く便利だが、機械化が進みすぎている。子どもに「お願いします」「ありがとうございます」という機会を与えてほしい。ここでは館員さんと一言も交わすことなく、本を借り、返すことができちゃう。(女性 30 代)

### 《学校での教育について》

- ・ 子供達に学ぶ事の楽しさを教えられる学校が増えてほしいと思う。(男性 50 代)
- ・ 西東京市の子供だけではありませんが、マナーのなっていない子供が多い。学校でもマナーの教育がもっと必要では。(第一は親のしつけですが)(女性 20 代)
- ・ 学校教育については第一にいじめ(校内犯罪)は起こらないように注意を払い、起こった場合は厳正な対応が必要だと考えます。学力も大切ですが、社会人となるための基本的な集団でのルール、考え方を身につけて欲しいと思います。(男性 50 代)
- ・ 小、中学校の先生方には国語、数学といった勉強そのものよりも、生徒が尊敬できる大人であることを求めます。(女性 20 代)
- ・ 学校は忙し過ぎます。雑用を減らし、先生方が子供達と向き合う時間の確保をしてあげて欲しいと思います。(男性 60 代)
- ・ 教師はもっと自信を持って子供、親に対してきびしく対応して欲しい。きびしさは、速効性は無いが後々に効果が歴然を現れると思います。(男性 60 代)

- ・ 学校教育の中でも、ボランティア活動（障害者、老人への）を取り組むことができれば良いと思います。（女性 50 代）
- ・ 子供さんの学習は先生だけでたよる事なく人生の長い体験経験をされた人達の話聞かせる場もあって良いと思います。三世帯同居が少ない中できっと役に立つと思います。（女性 50 代）
- ・ 教育のプログラムとして、ひとつのアイデアです。『仕事の現場を訪れる』受け入れる側の能力にもよると思いますが、保育園・幼稚園・デイサービス施設などを授業の一環として課外学習する。農業・西特産品の製造・生産体験など、実体験していただくことによって高校・大学進学後の勉学の方向性を選択する役に立てられるかと思います。商店街・企業・工場の見学も、地域との連携という意味で学校外の大人達の意識にも刺激になるのではないのでしょうか。（女性 70 代以上）
- ・ 仕事で平日保護者会等積極的に参加できない親の子供には、明らかに差別していました。いじめられていても見て見ぬふり、クラス全員の前で「仕事休んで保護者会に来ない親は子供を思っていない」と平然と言っていました。もっと質の高い教師を採用すべきかと思います。（女性 40 代）
- ・ 小、中学校の教育方針や様子など知りたいと思っても、どのように情報を得たらよいか、わかりにくいと思います。（女性 30 代）
- ・ 校舎の耐震性をきちんと見直し早急に対応をしていただきたい。大切な子供達が安心して勉強できる環境の整備を要望します。（女性 40 代）
- ・ 校舎周辺の整備が不十分の感はいなめない。児童生徒に整った環境と安全を意識させる為にも美観・安全に配慮した校舎周辺整備が求められる。（男性 70 代以上）

#### 《家庭での教育・しつけについて》

- ・ 思いやりのある子供にするには、家庭や学校が協力し合って人間性を豊かに育てられる様にしてほしい。（女性 70 代以上）
- ・ 子供が悪くなるのは親の責任。子供は親の鐘。学校や社会のせいにする事が 1 番の問題であり。たとえば動物とのかかわり等命の大切さから親がきちんと教えるべきだと思います。（女性 50 代）
- ・ 子供のしつけや教育の責任は、親にあると考えます。学校はそれを助けるものであり、親はそれを理解し学校教育には積極的に協力すべきだと思います。正しいしつけ、教育であれば、厳しい指導であっても良いと考えています。（男性 40 代）
- ・ しつけは家庭の問題と考えており、学校にそれを押しつけるのは間違い。と同時に地域ぐるみで子供の成長を見守っていける社会でありたいと思います。色々な年代の人が一緒に子供を見守る事で、かたよらないバランスのとれた子供に育つのでは。（女性 40 代）
- ・ 今の子供は注意すると「くそ・ばばあ」等と悪口を言う子がいる。それは家庭の躰けが出来ていないと思う。今の母親は子供を叱ることをあまりしないような気がする。電車の中で走り回ったり大声を出しても親は注意しない。（女性 70 代以上）
- ・ 昔の親がそうであったように、親は自分の子どもを、責任をもって育て社会に出す事を覚悟すること。昔の地域がそうであったように、地域はすべての子どもが地域の宝であることをしっかりと認識し、行動することともに、甘えすぎてはならないだろう。（男性 70 代以上）
- ・ 子供達の犯罪、いじめ問題等、昔私達が子供の頃を考えますと想像もつきません。これは母親が仕事、仕事で子供と充分向きあって見てあげることが出来ず、しつけ等、ゆきとどいていないからかと思えます。何でも学校の先生方の教育が悪いように云われがちですが、とんでもない。その子供のあの程度のことは家庭内での生活ぶりから来ているのではとしみじみ思っています。（女性 60 代）
- ・ 学校側が PTA や保護者、生徒に甘すぎると思っています。何でも学校側に押しつけ、自分達のやるべき家庭教育や給食費の未払い等、勝手すぎると思っています（全ての人とは思いませんが）学校は勉強（学問）を教えるところです。家庭教育までやる必要はないと思います。家庭教育は家庭でしっかりとやるよう指導すべきです。それには親の意識改革が必要だと思います。これからは学校や諸先生方がきざんとした態度でリードして行っていただきたいです。（女性 70 代以上）
- ・ 自分の子供は自分で育てる。しつけを学校や地域、他人に任せきりにしない。学校や地域はあくま

でもサポートである。社会の変化やサービスの多様化、充実化で「子育てサポート」を間違っているような気がする。子供へのサポートと同様に「親」の責任教育も必要ではないかと思う。(女性 30 代)

### 《地域との関わりについて》

- ・ 朝、学校帰りに会った時に、挨拶をしておはよう、おかえりなさいという言葉をかけても睨むくらいで返事なしで悲しい気持ちです。もう少し地域で考えた方がよいのではと思う。(女性 70 代以上)
- ・ 子供が学校を卒業すると、学校との接点は殆どなくなってしまう。土、日或いは長期休暇を活用した地域の人々と接触頻度が高まるような活動を今より多く行い、かつ、それを行っているとの情報を是非、発信していく仕組みをお願いしたい。(男性 50 代)
- ・ 学校という場所は閉鎖的になりやすい傾向があるので、父母に限らず地域社会との幅広い交流を行う必要がある。(男性 50 代)
- ・ 学校とかの行事やイベントに興味があり、参加したいが、働いている人にも配慮してほしい。行事やイベントが平日にありすぎて、フルで働いている私にはとても厳しい。(女性 30 代)
- ・ 情操教育の一貫として、地域の老人施設などに遊びに行く機会を作り、子供にお年寄りを好きになってほしいと思う。(女性 30 代)
- ・ 地域の子と接する機会が少ないのですが、まずあいさつの出来る環境が出来ればよいと思う。他人の子も注意できること、そして注意を受け入れられる子であって欲しい。また、子供の自転車のマナーを学校はきちんと教えて欲しい。(女性 30 代)
- ・ 大学で子供のことを学んでいるのですが、もっと地域と子供達の関わりが増え安心して暮らせる町が増えていくと良いと思っています。また、現代の子供達は、公園でゲームをして遊んだり、ゲームが中心の遊びが中心であり、体を動かして遊ぶ楽しさやおもしろさをあまり体験できていないのではないかと思うので、そういった楽しさを伝える機会などがあったら良いと思いました。(女性 20 代)
- ・ 部活動を市民に開放し、小学生や市民を受け入れて下さい。昨年度より中学校の部活動の手伝いをしていますが、このことにより、多くの生徒と知り合う事ができました。部活動を地域に開放する視点を持ち、市民の交流の場となればと思っています。生徒と地域のつながりが市民の生徒を譲る意識を高め、又、大規模災害時の共助の土台作りに活かされると思います。(男性 30 代)
- ・ 小・中学校のクラブ活動を市民がサポートする(参加する)機会をつくってほしい。子どもと様々な市民のコミュニケーションが深まる。(男性 40 代)
- ・ 現在、子ども関連のセラピストの学校へ通っています。学んだことを地域で活かしたら本望です。門戸が開かれたら、是非協力したいと考えています。自分の持っているものを地域に還元できたら嬉しいと思います。(女性 30 代)
- ・ 社協のボランティアに参加していますが、小学校や中学校側からの支援がここ 5~7 年間まったくなくなりました。街づくりには地域の子供の参加や協力(ボランティア)や交流が不可欠です。市の教育の一環としてもぜひ協力をして欲しい。(無回答)

### 《いじめや不登校について》

- ・ 子どもの周りにいる大人が、尊敬・信頼できないから、いじめや学級崩壊が起こるのだと思います。親も教育者も、もっと子どもを見てあげてください。(女性 20 代)
- ・ 学校でのいじめの問題には、心を痛めています。学校側は責任を回避せず、真剣に取組み、いじめにより命を断つ子供がなくなるようにして欲しいと切に願います。(女性 60 代)
- ・ いじめはどこの国にもあります。学校とは限らず社会に出てからもあります。小中学校のいじめを無くしようとするのではなく、いじめられても生きる強さを持たせることが必要。(男性 70 代以上)
- ・ 特にいじめに対して学校がかくす様な事をしないでもっとオープンに指導する。いじめられている子の親と同等にいじめている親の意見を発表する。(女性 70 代以上)
- ・ いじめなどの問題が起こった時に隠蔽するのではなく、きちんと公表し、素早く対処して頂きたい。閉鎖的な教育委員会の体質を変える為にも外部の民間人を登用するなどして改革すべきだと思います。

(女性 30 代)

- いじめや不登校等については、親はもちろんであるが、教師がもっと関心をもって観察、指導を強化する事が必要。無関心教師が多過ぎる。(男性 70 代以上)
- 学校にいじめ、不登校についての専門家が少なからずいないと、解決は出来ないと思っています。とかく担任の先生に責任が多くあると考えがちですが、学習指導、学級経営など忙しく、無理だと考えています。(男性 60 代)
- 子供のいじめや不登校を失くすには、小・中学校の教員が、「考える時間」を持てるような職場の環境がなければならないと思う。様々な仕事に追われたり、教員同士でコミュニケーションが盛んにできるような環境がないとすれば、子供たちに目を向けることは難しいのではないかと。教師が力を発揮できるように、学校の管理者や子供の親が協力していかなければいけないと思う。教師の悪い点ばかりあげつらったりせず、いい所をきちんと評価できるような体制を作るといいと思う。(男性 40 代)
- いじめや不登校について、先生方も忙しく大変なのもわかるが不安で苦しい思いをしている子供が居ることを忘れないでほしい。勉強を教えるだけが教師の仕事では無い。勉強だけなら塾でできる。学校では集団で生活すること、決まりを守ること、人の気持ちを理解すること、コミュニケーションのとり方、友人。学校は色々な事を身につける子供の世界の最大のコミュニティーだ。(女性 30 代)
- 今、いじめ問題が多いが、担任一人に任せるのではなく、学校全体で対応していく姿勢で児童の指導にあたってほしい。(男性 50 代)
- 子どもがいじめで不登校になったことがあります。その時、学校、教育委員会の対応に不信感もちました。まず、何故いじめられた子が勉強する場がないのか?とかく、いじめた子が守られている様に感じます。本当に未来を考えるのなら、教育、人間育成は大切です。(女性 40 代)
- 去年、我が子もいじめに会いました。「言葉の暴力」という事もあり、学校に相談しても「気にするな」とか「別の友人をさがしたら」という対応でしたが、次第にエスカレートし、学校に行けない状態が続きました。その時思った事は「なぜいじめている生徒が学校に通っているのか」ということでした。何度も学校に相談し、いじめている生徒もわかっているはずなのに、注意しても聞かないとの事でした。「停学させる」という手段がなぜ無いのでしょうか。いじめた人が学校に通えることは、いじめを肯定しているように思えます。そして、いじめを受けた生徒は心を痛めたうえ、学校にも行けず、つらい思いをしています。不公平ではないでしょうか。(女性 40 代)

### 《障害のある子供への対応について》

- 障害児に対する教育・療育の機会が少なすぎる。特別支援学校(学級)が充実していない。もっと積極的に相談にのってくれる方が必要。(男性 40 代)
- 子供達がいつでも相談できる相談所を学校内外に設ける必要があります。臨床心理士だけでなく、子供達の発達を視点に於いて相談に応じられる臨床発達心理士の採用も考えて下さい。(女性 60 代)
- 大人の発達障害が広く認知されるようになってきた昨今。小さなうちから回りが認める事、障害ではなく特性をとらえること(残念な事ではなく、認めたくないような事ではなく・・・)で普通に、又、それ以上に社会に適応していけると思います。(女性 40 代)
- 現在、障害者センターにてリハビリ等教育を受けていますが、障害の程度に応じて対応して頂いています。学校教育もそれが理想かも知れません。学校生活もクラス単位だけでなく、上級生と下級生が一緒に行動し、上級生が指導できるシステムを考えてみる事も有りかなと思います。(男性 60 代)
- 2 人の子供が市内の小学校にお世話になっていますが、それぞれの同級生に発達障害の生徒やその疑いのある生徒が複数おり学習環境が乱れていることが多々あります。特別支援学級などに通級するか否かの最終判断は保護者が握っているようですが、あまりに他の生徒の学習を阻害するようであれば行政から指導・指示という形でその生徒にふさわしい学校や学級に移ってもらうことは出来ないのでしょうか。多くの保護者の言いにくい悩みと希望です。(男性 30 代)

### 《その他》

- 学校、地域、家庭がそれぞれの役割を押しつけ合うのではなく、情報を共有し、それぞれの枠を超

えた協力体制を。(男性 20 代)

- ・ 子供を育てる、社会を良くする。家庭、学校、地域社会すべてに責任があると思う。何か事が起きた時に責任の押しつけ合いでなく、皆が各々の責任を自覚出来なければ良い方向へは進まないと思う。(男性 50 代)
- ・ 行政ができること、できないことをきちんと判断して計画を立案してもらいたい。行政がやるべきことと、民間、家庭でやるべきことを判断して計画を立案してもらいたい。コストパフォーマンスを良く検討して無駄なことに予算を使用しないでもらいたい。(男性 40 代)
- ・ 学校や自治体でやれることには限りがあるので、できるだけボランティア団体や地域の組織を活用することが必要だと思う。西東京市は、そのような団体・活動を奨励したり、組織化したり、アドバイスしたりする形で自らの目的を達成するのが良い。(男性 40 代)
- ・ 西東京市内の中学生が、母校の学校の門で喫煙している姿を近所の方が見かねて学校へ連絡すると、「門の外での出来事なので対処しません」と回答されたそうです。子供を教育する側の指導を再確認し、行政・学校・地域が協力して、非行のない安全な街づくりに努めて頂きたい。(女性 30 代)
- ・ 近隣の市、区等に於いては郷土資料館があり、土地の歴史文化を大切にしておられるように思われます。西東京市には、郷土資料室はありますがあまりにもおそまつで他を訪問するとはずかしく感じられます。充実した資料館にしていいただければと希望します。(女性 70 代以上)
- ・ 公園や広場に行くと野球はダメ、サッカーはダメとどこでも記載されています。こういった環境が地域との係わりや友達同士のつながりを希薄なものにしているのではないのでしょうか。遊ぶところが無いから結局市外に出て遊ぶしかない状況です。(男性 40 代)
- ・ 公務員なので仕方ないことだが、親子で参加できる催しが平日ばかり、仕事をしているので乳児と共に参加できる楽しいことを、土日に行なってくれるといいのに、と思っています。働いているお母さんは案外孤独だと思います。(女性 30 代)
- ・ 今、「食育」が必要です。関心をもっている人は何人いるのでしょうか。「食」は人に良いと書きますネ。健康的な食生活は、生きる為には重要です。病は食べた物のつけから、又病気を治すのも食べ物です。子供がキレル、いじめ等は栄養のバランスからおこります。賢い子供が育ち、円満な家庭生活がおくれる様に、食の大切さを知ってほしいです。(女性 70 代以上)